

令和4年度

教 育 基 本 方 針

学校法人 中央工学校

中央工学校 O S A K A

1 本年度の基本方針

本校の各部署においては、本年度、下記の事項に留意し、安定した学校基盤を構築し、円滑な学校運営を推進する。

(ア) 教務室

- (a) 職員間の共通理解と協働体制を向上させ、計画的かつ円滑な校務運営を目指す。
- (b) 業務の担当領域の明確化を図り、組織的で合理的な遂行に努める。
- (c) 学校施設の適切な維持管理と施設状況の把握を行い、計画的な保全を実施することで学校施設の長寿命化を推進する。
- (d) 学内情報管理システムのすべての機能を本格活用し、円滑な運用と学校全体の業務の合理化・迅速化を推進する。
- (e) 個人情報に関する書類等の管理・取り扱いの厳格化を図る。
- (f) 学費未納者及び学費滞納者に対する対処の厳格化と徴収方法を検討する。
- (g) 高等教育修学支援制度の学生への周知徹底とその業務の円滑な遂行に努める。
- (h) 高大接続改革に関する情報を収集し、建築系と連携して対応策を検討する。

(イ) 建築系

- (a) 新型コロナウイルス感染症の影響による社会の変化に対応するため、教育内容及び教育環境を見直す。
- (b) 実践的な能力を備えた人材を育成するため、産学協働を意識した演習授業の充実に努める。
- (c) 職員は自己研鑽に努め、学生の多様性と個性を尊重した、成果の挙がる教育方法と学級運営方法を習得し、その力を向上させる。
- (d) 学生の理解度・満足度を向上させ、授業の質を確保しつつ、学生の午後5時下校を促進するため、授業内容・実施計画を見直すにあたり、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度より実施している遠隔授業の効果的な運用方法を見出す。
- (e) 一級・二級建築士試験合格を支援するための具体的な仕組みづくりを検討する。

(ウ) 国際系

- (ア) 特色ある授業や卒業後の進路に応じた教育をはじめ、在籍管理をきめ細かく行い、留学生や日本語教育機関からの信頼を一層深め、持続的な定員充足に努める。
- (イ) 業務に対する共通目標と協働体制の意識を堅持し、業務の質的向上を促進させ、計画的かつ円滑な運営を目指す。
- (ウ) 日越通訳・翻訳科及びブリッジシステムエンジニア科において、企業・官公庁のほ

か、他の専門学校と連携を深め、社会のニーズに即した人材育成を推進する。

(エ) すべての留学生に日本語能力試験のほか、大学進学希望の留学生に日本留学試験、就職希望の留学生にビジネス日本語能力検定等を受験させ、進路の選択幅の拡大を図る。

(オ) 新型コロナ禍での留学生に対する企業の求人動向を注視し、情報収集に努め、オンライン企業説明会等への学生の積極的な参加を促す。また、インターンシップ先や就職先の開拓に、より一層努める。

(カ) 入国制限による国内留学生減少における大学・専門学校の入試への影響を探り、学生の志望校の目標設定時の判断材料にする。

2 本年度の留意事項

(1) 学校運営

(ア) 学校経営の健全化の促進

(a) 学生数の増加の促進

18歳人口が2018（平成30）年度から急減期に入り、大学入試改革、近隣の大学における建築系学科の新設等により、本校の学生募集は極めて厳しい状況にある。

また、新型コロナウイルス感染症の影響で経済的に進学をあきらめたり、都市部への進学が敬遠されたりする懸念もある。

そのような中、「資料請求数」「イベント参加者数」「出願数」「入学者数」のステップに基づく歩留り率を把握し、実績の変化から課題を抽出したうえで、全校一致の広報体制づくりを築き上げるようにする。

また、本校のストロングポイントを一貫して訴求し、入学者の早期獲得・増加につながるようにする。

(b) 休学・退学防止策の検討

オンライン授業が今後も実施継続となることを前提に、学校生活の充実や仲間づくりを促すための、仕組みを確立する。オリエンテーションやガイダンス、A S Hの内容を工夫し、学業継続の目的を失わないための情報提供や自信と希望が持てる経験をさせることを意識する。

また、常に個々の学生の状況を把握し、気になることがある学生については、保護者と連携して早期に対処するために、授業前、授業後に学生の理解度や授業態度について確認を行う等、非常勤講師との連携を深める。

さらに、全員の出席率が90%以上となるようにクラス全体に対する教員の指導スキル向上を目指す。

(c) 国際系の安定した運営・経営方向の検討

新型コロナウイルス感染症の水際対策である入国制限により、今年度は日本語教育機関の在籍学生数が極めて少ない状況となる。そのため、昨年度、在籍する留学生の卒業延長措置を講じた日本語教育機関への営業活動をより早期に開始し、各校の卒業予定者数及び進学希望者数を把握し、日越通訳・翻訳科とブリッジシステムエンジニア科出願に向け、計画的に広報活動を展開する。

また、国際コミュニケーション科に関しては、入国制限により、日本語教育機関で「基礎日本語」を学んだ学生がほとんどいない現状と昨年度の募集において、本校のみならず、他校の「応用日本語」のコースでも大幅な定員割れをしている状況を鑑み、今年度は新たな留学生の募集を休止する。

新型コロナウイルス感染症の発生以降、外国人の日本への「留学」というニーズが少しずつ変化している。その中で、経営の安定化を図るため、ブリッジシステムエンジニア科への日本人学生の入学を目指す新たな広報活動を模索する。日本人を含む多国籍クラスを実現し、他校にはない本校の特色を打ち出す。

(d) 内部進学者の増加の促進

進路選択の一つとして、建築系においては、建築学科、住宅デザイン科の半数程度を研究科へ進学させることを目指す。そのために、研究科の存在感を合格実績だけでなく、交流の場を設ける等して、1年生に魅力をアピールする。

国際系においては国際コミュニケーション科からの日越通訳・翻訳科及びブリッジシステムエンジニア科への内部進学が選択の一つになるよう、普段から両科の授業見学や体験授業を行い、内部進学者を増加させるよう努める。

(e) 合理的な広報活動の方策の確立

建築系においては、オープンキャンパス等の広報イベントのほか、高校訪問や会場・校内ガイダンスの参加等について、学内情報管理システムを活用し、昨年度の実績数値の把握ときめ細かい検証を行い、効果的な広報活動の展開に努める。

オープンキャンパスではわかりやすく、魅力的に教育内容をアピールするための見直しを常に行い、やる気ある参加者にとって入学の決め手となるよう工夫する。

建築系留学生の広報活動を国際系と集約し、ホームページや募集要項オープンキャンパスにて配布する資料、説明内容等に不整合がなく、ビジュアル的な統一

感に留意する

国際系においては、これまでに日本語教育機関と築いてきた信頼関係を、さらに強固にすべく、きめ細かく丁寧な営業活動を継続して行う。

また、1期生の進路実績や他校にない課外研修等、本校の特色を積極的にアピールしていく。

(イ) 特色ある学校づくりの推進

(a) 環境教育の促進

資格試験対策の授業の中で選択できたe c o検定（環境社会検定試験）対策の授業は、令和4年度から実施しないこととしたが、設計課題等に環境配慮の発想を取り入れ、環境問題の解決のための手法を理解させることを目指す。建築学科設備コースはもとより、建築系全体で充実させていく。

(b) B I M教育の推進

建築学科においては、B I Mの特性を実感できるようにし、その基本操作を確実に習得することを目指す。意識や能力の高い学生については、現場に即したB I Mの技術の習得を目指し、企業と連携して指導内容を発展させていく。

(c) 資格取得の推進

建築系においては、資格取得率の改善を図るために、対策授業においては、試験までのスケジュール管理が自らできるようにシラバスを配布し、自己管理能力の向上を支援する。

国際系においては、日本語能力に関する資格にとどまらず、ビジネス日本語検定、ビジネスマナー検定、I Tパスポート等の就職に有利となる資格取得を目指す。

(d) 人間涵養教育の推進

令和4年度は、コミュニケーション、目標設定、セルフマネジメント等を目的の中心にした新入生オリエンテーションとしての軽井沢代替研修をさらに充実させていく。

国際系においては、「自主、自覚、自律」を基本方針とした教育を推進し、自立した人材の育成に努める。

(e) 建築士試験の受験要件緩和への対応

令和3年度末に一級、二級同時受験を意識させるための模擬テストを実施したところ、研究科進学者の中に、同時受験志願者が出てきたため、学校としてのサポートを模索し、可能な限り様々なことを試みて次年度以降の発展につなげてい

く。

(f) 施設・設備の充実化

老朽化あるいは劣化の著しい施設の改修、及び設備の整備・充実化を適切に進める。

(ウ) 業務の効率の向上

(a) 業務の合理化

引き続き、人員不足の解消に努めるとともに、業務の合理化を図り、定時退勤及び時間外勤務の削減を促進する。

(b) 業務内容の点検・見直しの促進

引き続き、業務内容の点検・見直しをきめ細かく行い、よりよい学校運営ができるよう業務改善を図る。

(c) 学内情報管理システムの活用

昨年度から学内情報管理システムを活用し、学籍管理や成績管理を行っていったが、今年度からは出席管理も行い、不要な業務の見直しや文書の簡素化、さらなる業務の効率化を図る。

(d) Google for Education 導入の検討

建築系では、東京校の協力により、Google for Education の導入を検討中であるが、令和4年度は試用期間の予定にしており、学生管理、業務効率向上につなげたい。

(e) 職員間の相互扶助の促進

職員間の一体感を高めるため、業務内容の相互理解を深め、適切な扶助のための動きが取れるようにする。そのため、頻繁にショートミーティングを行うことや、一人ひとりのパフォーマンスの向上も必要である。

(エ) 職場環境の改善

(a) 挨拶の励行

職員間ではもとより、学生、来客等への挨拶を励行し、明るい学校及び職場づくりに心掛ける。日々のコミュニケーションが自然にできる環境づくりは、挨拶からであることを意識する。

(b) マナーの向上

職員としての服装や言葉遣い等に留意し、誰に対しても敬意を持って丁寧に接する。また、「学生生活のしおり」が、形だけのものにならないよう、職員が率先して「学生生活のしおり」にあることを態度で示し、学生・留学生の手本となる

ようにする。

(c) 校内美化と整理・整頓の推進

ポスター等の適切な掲示や物品等の整理・整頓、教室の美化を心掛け、良質な学習環境を維持する。

(d) 作品等の掲示・展示方法の改善

学生・留学生の作品の展示をはじめ、資格の合格者、コンペの結果等をできるだけ早く掲示・公表し、祝賀ムードを盛り上げる工夫をする。建築系及び国際系の特徴・学校らしさや心andraげる雰囲気醸成する。

(e) 職員間の情報の共有

部署ごとのミーティングを定期的開催し、学生・留学生の情報や職員が個別に抱える課題等の共有を図り、風通しのよい職場環境を整えるようにする。

また、互いに謙虚な気持ちや学び合う姿勢、相互扶助の精神を持つとともに、全員が専門性を常に高める努力を怠ることなく、誰もが人材の育成を担う意識を持つ。

(オ) 附帯教育事業の充実化

(a) 新規プログラムの研究・開発

地域や社会の課題、産業界、関係団体等のニーズを適切に把握し、新たな生涯教育を研究・開発する。

(b) 産学連携プログラムの開発

求人やインターンシップを通じて企業等から積極的に産学連携に係わる情報を収集し、ニーズの高い魅力あるプログラムとして、業界の情報や知見が集積している本校の強みを活かした、業界向けのセミナー等を開発する。

将来は、業界の情報や研修の拠点として、広く活用してもらえることを目指す。

(c) 中央工学校生涯学習室等との連携強化

中央工学校生涯学習室等と連携し、新しい講座を開拓する。

(d) 外部機関等への教室の貸し出しの促進

日程や収容人数等が可能な限り、各種講習会や各種試験等への教室の貸し出しを積極的に行う。

(e) (学) 中央工学校OSAKA一級建築士事務所の目的

建築設計に関する幅広い知見を有している本校が設計事務所として実務に携わることの意義を意識し、社会に貢献できる設計事務所となることを目指す。

現在、中央工学校OSAKA一級建築士事務所では、初めて新築住宅の設計監

理契約を締結し、着工準備中である。本校の有する知見を施主と社会に還元し、貢献するとともに、現場の実務を学ぶ本校の授業や、本校の学生・留学生の成長の一助となる業務とすることに重点を置き、無事な竣工を目指す。

(カ) 非常勤講師との連携の促進

(a) 情報の共有化

クラウド型学内情報管理システムの導入をさらに発展させ、益々の充実を図る。また、非常勤講師から学生への資料配布や連絡、作品回収等を円滑に行うためのシステムの導入も令和5年度の運用を目指し、進めていく。

(b) 学校行事への参加の促進

卒業成果・制作発表会等の学校行事の多くが、オンライン化しており、ライブ感の共有が難しいという弊害が起きている。非常勤講師の協力を得て、校外のイベントへの参加も促進し、体験から学ぶ機会の充実を図る。

(c) 意見交換会の開催

職員と非常勤講師の意見交換会を適宜開催し、授業運営やインターンシップ、就職、広報活動等を改善する。活発な意見交換会のために、非常勤講師全員への開催の周知や議事録の公開等の工夫をする。

(d) 学科内方針の共有

学科内で授業の到達目標を具体的に設定し、科目ごとの連携・引継ぎは、担任がコントロールしていく。さらに、学生・留学生への指導方針を定め、職員と非常勤職員の間で共有し、スムーズな対応が行えるようにする。

また、非常勤講師からの意見や提言をもとに、授業方針の改善・見直しを行い、現場の実情に沿ったカリキュラム、授業であり続けるために努力する。

(キ) 職業実践専門課程に係わる取り組みの推進

(a) 企業等と連携した実習・演習等の実施

建築系ではインターンシップのほか、企業等と連携したプロジェクトやプログラムを実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響でインターンシップの受け入れを断られたり、中止を検討したりしなければならないケースも増えている。

そのような中でも、職業実践専門課程として、日々変化する現場の状況に即した技術を確実に習得させ、専門性の充実化及び高度化を図れるよう、オンラインを活用した実施方法の検討や内容の見直しを継続して行う。

(b) 企業等と連携した職員研修の実施

教員の指導力向上を図るため、オンライン授業におけるファシリテーション技

術習得のための研修や専門分野における中・長期の研修について検討する。

また、関係専門分野の企業等と連携した見学を中心とした研修も引き続き行っていく。

(c) 教育課程編成委員会等の意見の活用

教育課程編成委員会における意見・提案等を踏まえ、授業内容やカリキュラムの改善等を継続して行うとともに、社会のニーズに即した教育や教員の資質向上にも役立てる。

(d) 学校関係者評価書の作成・公開

学校関係者評価は、あらかじめ職員が作成した学校自己評価に基づいて定期的に行っており、学校関係者評価書をホームページで公開している。

また、学校関係者評価の作成・公開は、一昨年度から実施された「高等教育段階の教育費負担軽減新制度」（高等教育の無償化）の機関要件の一つでもある。

これらのことを踏まえ、学校関係者評価書の作成を通じて問題点や課題を抽出し、学校運営の改善と発展を目指すとともに、公開によって学校への理解を一層得られるようにする。

(ク) 国際系の取り組み

(a) 入学者数の安定的確保

目的意識がはっきりしていて出席率が高く、経費支弁状況が明確な留学生を確保する。また、新型コロナウイルス感染症収束後の留学生事業を見据え、ブリッジシステムエンジニア科への日本人学生の入学を目指していく。

(b) 入学後の在留資格更新の円滑化

入学者すべての在留資格更新が円滑に行えるよう、送り出しの日本語教育機関と連携を図り、在留期限の把握、必要書類の収集、精査を徹底する。

(c) 除籍・退学の防止

出席率の管理、在留カードのチェック等をきめ細かく行うとともに、留学生の言動に留意し、除籍・退学の防止に努める。退学抑止のため、生活やアルバイト状況に気を配り、常にアルバイト紹介等が行えるよう、企業と連携し、求人情報を把握しておく。

また、母国の経費支弁者の経済状況も把握し、経済的困難に陥った学生がやむを得ず新たな進路を選択する際は、除籍とならないよう、適切な指導を行い、在留資格変更を必ず行う。

(d) 各学科の特色の鮮明化

国際コミュニケーション科においては、少人数クラスでのきめ細かな日本語指導、進路指導を行い、これまで同様に全員の第一志望合格を目指す。

日越通訳・翻訳科においては、就職後を見据え、より実践的な内容を題材にした通訳・翻訳の授業を実施する。また、インターンシップを通じ、現場での対応力やマネジメント力、判断力を身につける。

ブリッジシステムエンジニア科では、就職先となる企業のニーズを踏まえたカリキュラムによる実践的な教育を展開し、様々な業種でのインターンシップを通じ、本科の3つの学び「建築」・「製造」・「プログラミング」の中から自分に合う分野を発見させ、就職後のミスマッチが起きないようにする。

就職を目指す「日越通訳・翻訳科」、「ブリッジシステムエンジニア科」の両学科では、1年次より授業内で企業招集、会社説明会等を行い、早期よりインターンシップを取り入れ、就職活動への意識形成を行う。

(e) 実践的日本語力の取得の強化

日本語能力試験の対策とともに、就職を目指す「日越通訳・翻訳科」、「ブリッジシステムエンジニア科」の2学科においては、ビジネス日本語やプレゼン力を身につけ、日本語の運用力を高める。また、専門科目での理解不足がおきないように、専門用語の日本語フォローに努める。

(f) 国際コミュニケーション科の今後の在り方の検討

国際コミュニケーション科においては、文部科学省及び出入国在留管理庁が示す「専ら日本語教育を行う別科」への対応策に留意するとともに、今後の外国人の「日本留学」のニーズの変化や日本企業の「労働力」としての外国人人材のニーズを注視し、学科の継続の在り方について慎重に検討していく。

(g) カリキュラムの見直しの検討

経営と教育のバランス、社会の変化やニーズに留意し、常に柔軟にカリキュラムの見直しや変更を検討し、学生や企業から選ばれる学校を目指す。

(2) 学習指導

(ア) 重点事項

(a) 学校行事及び研修内容の見直し

軽井沢研修は、令和4年度も校内代替研修とする。他の研修についても、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、令和3年度の研修は、そのほとんどを校内代替研修としたが、その実施状況を踏まえ、オンラインや屋外の活動を適切

に取り入れ、内容を充実させていく。

また、卒業成果・制作発表会については、期せずして、遠隔プレゼンテーションに対応した表現を学ぶよい機会となっている。しかし、卒業成果・制作作品集については、指導不足による不備が散見されたため、そのあり方を見直し、目的や、成果を明確にし、最適な形に改善する。

国際系においては、学校とアルバイトの往復だけになりがちな留学生に、さまざまな体験を授業内で経験できるように、課外活動や校外学習を取り入れる。これらの活動を通して団体行動の大切さやクラスの団結力を培い、異文化への興味、社会への関心が広がるよう、また2年間という限られた学生生活の中で友人との思いで作りの場となるような機会を提供する。

(b) 学生ラウンジの活用

学生ラウンジを学生・留学生や職員の食事のほか、学生・留学生間及び学生・留学生・職員・非常勤講師間の交流、クラブ活動、セミナー、作品展示、地域開放の場等としての活用を一層進める。

(c) 中央工学校グループ校との連携の強化

建築系においては、引き続き、国内建築研修において、東京実施が可能ならば、中央工学校の充実した新校舎設備を使った授業の実施を検討し、さらにその際の学生・留学生間の交流等発展を目指す。

この2年で、両校のオンライン授業に関する知見がそれぞれ蓄積されたが、令和4年度は、それらを効率よく共有し、双方の教育における合理化につなげる。

国際系においては、グループ4校の留学生担当職員と定期的に意見交換、情報交換を行い、在籍状況や留学生に関する事案、問題点について共有する。

(d) 日本の伝統文化の体験の促進

隣接する服部緑地の日本民家集落博物館を利用した古民家の見学会の充実や万博記念公園内の日本庭園及び迎賓館の見学等から、興味・関心を高め、学生・留学生のわが国の伝統文化に接する機会を引き続き充実させていく。

(e) 教育成果の外部への発信の推進

広報職員と連携して、ホームページや学校アプリ等の各種広報媒体を通じ、授業をはじめ、コンペの成果、学校行事・クラブ活動の様子等、日頃の教育成果を、引き続き積極的に外部に発信し、反応を分析し、改善につなげる。

学生・留学生のアイデア、デザイン成果については、学生個人の著作権を守りつつ、広く社会に役立てることができるよう、製品化や特許や意匠登録の権利取

得について引き続き模索していく。

(イ) 建築系

(a) 目標

◇『厳しい実務教育』、『人間涵養教育』

(b) 基本方針

(i) 各学科の特色化の推進

(ii) B I M教育及び環境教育の充実

(iii) 明確かつ適切な目標設定による授業の理解度・習熟度の向上

(iv) 内部進学を踏まえた研究科の目的・カリキュラムの見直し

(v) 遅刻・早退・欠席者及び休・退学者の削減

(vi) プレゼンテーション能力の向上

(vii) 各種コンペティション参加の促進

(viii) 資格取得の促進

(c) 具体的方策

(i) 各学科の特色化の推進

◇研究科

二級建築士建築士試験の合格率の向上及び後期の学習内容の充実を図る。

一級建築士受験準備のための本校の方針を固め、令和5年度からの実施を目指す。

◇建築学科

建築設計演習Ⅰ（1年次必修）において、課題内容と、授業時間が合致しておらず、困難な状況があったため、関連授業と共に調整を加え、令和4年入学者より新カリキュラムとする。

◇住宅デザイン科

住宅設計に関する現場を実感させ、実務力の向上を図るため、令和4年入学者よりカリキュラムに変更を加えた。

また、C A Dソフトとして、住宅業界で多く採用されているアーキトレンドを導入する。

◇インテリアデザイン科

引き続き、デザイン教育の充実を図り、学生の習熟度向上によって、デザイナーとして独立、自営を目指す経営戦略を身につける教育を強化する。

(ii) B I M教育及び環境教育の充実

- ①B I M関連ソフト（専門科目・演習科目）を使用する授業の増加を図る。
- ②環境問題の理解とS D G sの概念の浸透を意識する。
- (iii) 明確かつ適切な目標設定による授業の理解度・習熟度の向上
 - ①具体的な目標をシラバスに明記し、シラバスを十分に活用する。
 - ②各科目の連携を意識し、学生の習熟プロセスに見合う目標を学生・留学生に示す。
- (iv) 一級建築士受験を見据えた研究科のカリキュラムの見直しの検討
 - ①一級建築士受験を意識させる機会を増やし、一級の内容にも触れるようにする。
 - ②研究科後期授業をさらに充実させる。
- (v) 遅刻・早退・欠席者及び休・退学者の削減
学生本人が、自己管理しやすい工夫と指導に努める。
- (vi) プレゼンテーション能力の向上
日頃の作品発表においては、伝えたいことを時間内で魅力的に伝えるための作品情報の編集能力を養うための仕組みを構築する。
- (vii) 各種コンペティション参加の促進
同時期に実施されている授業との連携等も考慮し、学生の意欲の継続を支援する必要がある。無理なスケジュール等を見直し、環境にも工夫することで、結果につなげ、より一層のレベル向上を図る。
- (viii) 資格取得の促進
自分にとって必要で、頑張れば取得できる資格に自主的に挑戦させ、スケジュールを自己管理することも指導する。

(ウ) 国際系

- (a) 目標
 - ◇「質の高い日本語教育と専門教育の実施」に留意する
- (b) 基本方針
 - (i) 特色あるカリキュラムの編成
 - (ii) 授業の理解度・習熟度の向上
 - (iii) 地域活動及び異文化交流・社会貢献の推進
 - (iv) 課外授業の充実による他校との差別化
 - (v) 生活指導の徹底
- (c) 具体的方策

(i) 特色あるカリキュラムの編成及び授業理解度・習熟度の向上

◇国際コミュニケーション科

- ①大学進学希望者の日本語応用力・読解力・聴解力の向上
- ②専門学校進学希望者に対する日本語能力試験対策授業の強化し、N2の合格率を向上
- ③志望動機・研究計画書の作成方法、面接、身だしなみの指導の徹底

◇日越通訳・翻訳科

- ①通訳者・翻訳者に求められる語学の運用力、理解力の向上、及び日本語の上級レベル（N1）への到達
- ②ビジネスマナー、パソコンスキル、キャリアアップ教育の促進
- ③就職後に求められるチームワーク力、マネジメント力の育成
- ④ボーダレス社会で活躍できるヒューマン・コミュニケーション能力に優れた人材の育成

◇ブリッジシステムエンジニア科

- ①専門科目の習熟度を高めるための専門用語の日本語フォローアップ
- ②建築・機械・ITの3分野の学習による幅広い業種に対応できる基礎知識の修得
- ③母国と日本の架け橋となるための語学力、技術力、知識力の養成

(ii) 地域活動・社会貢献・課外活動の充実

アルバイトと学校の往復だけになりがちな留学生にとって、クラスメイトとの研修や校外活動は団体行動を学ぶ上でよい機会となり、また、よい思い出づくりの場となる。クラス内の団結が高まることで進学や就職活動への効果をもたらすという利点もあり、緑地公園の清掃という社会貢献活動をとおして、地域との連携や学生自身の道德心を育む。

(iii) 在籍管理とマナーの育成

日頃から一人ひとりの行動に留意し、出席率の95%維持に努めるとともに、学習態度や生活態度の変化を見逃さないよう、職員全員が情報共有し、早期発見、早期指導を行う。また、社会に出た時に恥ずかしくないよう、日頃からマナーを意識させ、挨拶、服装、言葉遣い、整理・整頓等に留意する。

(3) 学生・留学生指導

(ア) 個別指導

- (a) 日頃から学生・留学生をよく観察し、悩みや問題点を持つ学生・留学生の早期発見に努め、休・退学を防止する。
- (b) 日頃から学生・留学生の就学状況を保護者と共有できる体制を構築する。
- (c) 教育懇談会等をととして、家庭の実態を把握し、保護者との信頼関係を築く。
- (d) 学生生活や留学生生活をととして、規律ある生活態度や社会人として必要なマナーを身に付けさせるにあたり、職員、学校関係者、学校の学生対応についても、常に、良心的で、誠実を心がけ、学生・留学生に見られていることを忘れないようにする。

(イ) 集団指導

- (a) 学校内での学習や生活だけでなく、地域活動等にも積極的に参加を促し、立場や背景の異なる他者との良好な関係を築き、秩序ある行動の重要性を指導する。
- (b) さまざまな学校行事や、グループ課題において、自分の考えや意見を伝えながら、他者と協力して、一人ではできないことをチームで達成する経験から、対話の重要性や組織の一員としての動きを理解させる。
- (c) A S Hや入学時のガイダンス等では、異なる背景や文化への理解を促進させるように留意する。また、A S H、課外学習の時間は、2年間を通して、職業観だけでなく、視野が広がるような取り組みを企画し、実施する。
- (d) 引き続き、未成年者の喫煙指導は徹底し、公共のマナーに対する意識の向上を図る。

(ウ) 交通安全教育

- (a) 通学途上における交通マナーを向上させ、交通事故を防止する。
- (b) 自己及び他者の生命の大切さを自覚させ、無謀な運転を防止する。
- (c) 留学生に対し、日本国内の交通マナーに関する理解の徹底を図る。

(エ) 図書室の利用指導

- (a) 専門図書のほか、幅広い教養を身に付けるための一般図書を充実させる。
- (b) 学生・留学生の読書傾向を調査し、ニーズの高い図書を拡充する。
- (c) 学生・留学生が親しみやすく、学習しやすい場となるような雰囲気にする。
- (d) 書籍だけでなくW E B等を活用し、常に新しい情報等が閲覧できるようにする。

(4) 進路指導の重点

(ア) 重点事項

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、合同企業説明会等の就職活動イベントや

会社説明会が各地で中止や延期、規模が縮小され、建設業界においても就職活動に大きく影響している。

このような状況の中、本校では、キャリア教育の実践等をとおして、すべての学生・留学生在が夢や希望を持ち、自己が求める企業に就職活動の時期を逸することなく、早期に就職できるようにする。

このほか、学生・留学生的の適性、興味・関心等を踏まえ、自らの職業観・勤労観を培い、社会人として必要な資質能力を形成していくことができるようにするため、経済産業省が職場や地域社会で暮らしていく必要な力として提唱している「社会人基礎力」、すなわち、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」を身に付けさせる。

また、今後の新型コロナウイルス感染症が求人や就職活動にどのように影響を与えているかを正確に把握し、情報収集を行い、進路指導を行う。

(イ) 建築系

(a) 目標

学生・留学生在が自己を正しく理解し、自らの意志と責任で進路を選択する能力を育成する。

(b) 基本方針

- (i) 自己実現に向けた自主性の育成
- (ii) 計画的な進路ガイダンス及び進路指導の推進（学級担任との連携強化）
- (iii) 学生・留学生的の就職活動の早期化の促進
- (iv) 就職に繋がる効果的なインターンシップの実施
- (v) 研究科への内部進学 of 促進
- (vi) 新型コロナ禍における就職活動の対策

(c) 具体的方策

(i) 学級担任及び職員間の情報共有の徹底

各学科やクラス、教科等と連携を密にして、入学から卒業までを見とおした進路指導計画を立案するとともに、学生・留学生在一人ひとりが自らの考えや行動等に基づいて、自己実現を果たす能力を育成する。

学級担任と連携し、学生・留学生的の職業観・勤労観を育成するとともに、自己分析や企業研究をはじめ、学校求人や自己開拓での就職活動の方法・手段を計画的に指導する。

また、履歴書の作成方法や採用選考等の指導、進路相談等を個別に行い、就

職内定へ向けたサポートをきめ細かく行う。

(ii) 進路指導に係るセミナーへの参加の推進

進路指導の改善・向上のため、関係諸団体主催の研修会等に積極的に参加し、企業との関係を強化する。

(iii) 就職活動の早期化に即した計画的な進路ガイダンスの実践（進路指導の充実化）

求人公開の早期化を図るため、求人依頼を1月に行うとともに、キャリアマップで求人受付を随時行い、公開できるようにする。

①就職指導サポートシステム（キャリアマップ※）の活用

※（一社）大阪府専修学校各種学校連合会（大専各）が推進するシステム

- ・大専各のスケールメリットを活かした求人情報（新規・既卒）の提供
- ・新規求人票のデータ入力、データ更新の代行（キャリアマップ法人事務局）
- ・就職活動の進捗状況の記録（応募、面接、内定承諾等）と学級担任との情報共有
- ・会社説明会等の学生への一斉告知（メッセージボックスによる最新情報の提供）
- ・求人票の整理やデータ入力の効率化による学生・留学生へのキャリア教育・進路指導の強化

②就職支援サイト担当者による進路ガイダンスの充実化

マイナビやリクナビ等による就職支援サイトの登録や活用方法の指導を行う等、進路ガイダンスの充実化を図り、就職支援サイト主催の就職セミナーへの参加方法やイベントの告知をきめ細かく行い、就職活動に対する意識の強化と早期化を促すようにする。

③インターンシップの実施

希望職種と実務とのミスマッチによる早期離職の防止のほか、学生・留学生の希望や適性、能力に応じた企業等への採用内定を促進させるため、産学接続を踏まえたより効果的なインターンシップを実施する。

就職活動の時期を逸することなく、学生・留学生が自らの意志と責任でインターンシップ先や就職先を決定することができるようにするため、4月に本校とキャリアマップ合同による合同企業説明会をオンラインで開催する。

(iv) インターネットの活用の推進

学生・留学生一人ひとりが自ら積極的に企業研究や情報収集、求人応募エン

トリー等を行えるようにするため、インターネットを利用した就職支援サイト（マイナビ・キャリアタス等）の活用について、進路ガイダンス等をとおして指導する。

（v）校内企業説明会及び合同説明会の開催（主催：本校及びキャリアマップ）

インターンシップ先の検討及び就職活動の一環として、本校及びキャリアマップ主催の合同企業説明会をオンラインで開催する。採用実績があり、インターンシップや求人を受け付けている建築、住宅、インテリア、B I M等の分野の企業を招聘し、オンラインで人事担当者や卒業生からの自社の業務内容や雇用条件等の説明を踏まえ、自らが望む企業への採用や業務への従事等を促進させるようにする。

（vi）新規求人企業開拓の推進と求人企業の見直し（求人企業・求人数の確保）

①新規求人開拓の促進

進路希望調査をもとに、一人ひとりの学生・留学生の希望分野・職種等について適切に把握するとともに、関係の大手企業や優良企業に対する求人開拓を積極的に行う。また、留学生の受け入れ企業の情報収集や求人開拓等を行う。

②関係団体との連携・産学共同プロジェクトの促進

外部団体が開催しているセミナーや講習会等に学生・留学生を積極的に参加させ、建築に係わる幅広い知識・技術を習得させるようにする。

また、産学協同プロジェクトをとおして、企業が求める能力（社会人基礎力）や人材等を把握し、教育に反映させ、魅力ある学校づくりを進めるようにする。

（vii）研究科への内部進学への促進

進学ガイダンスや個人面談を計画的にきめ細かく行い、広報と連携し、研究科への内部進学を促進する。

（viii）新型コロナ禍における進路指導について

新型コロナウイルス感染症が求人や就職活動にどのように影響を与えているかを正確に把握し、情報収集を行い、進路指導を行う。

（ix）校友会との連携の促進

校友会（同窓会）と連携し、卒業生の社会的貢献活動や離転職等の状況を的確に把握する。

（ウ）国際系

（a）目標

留学生が自己を正しく理解し、自らの意志と責任で進路を選択する能力を育成

する。

(b) 基本方針

- (i) 手厚い進路指導による学生の高い満足度と信頼度の獲得
- (ii) 希望進路の早期把握と実現に向けた活動の強化
- (iii) 進路指導に関する情報収集の強化
- (iv) 計画的な進路指導の実施
- (v) 計画的なインターンシップの実施
- (vi) 進路相談体制の強化
- (vii) 新型コロナ禍におけるオンライン企業説明会等の参加の促進

(c) 具体的方策

- (i) 手厚い進路指導による学生の高い満足度と信頼度の獲得

留学生一人ひとりが自らの考えや行動等に基づいて、自己実現を果たす能力を育成する。学生の職業観・勤労観・将来像を育成するとともに、大学や日本企業が留学生に求める人物像を分析し、学校選び、就職活動の方法・手段を計画的かつきめ細かくアドバイスし、希望進路へと導く。

- (ii) 希望進路の早期把握と実現に向けた活動の強化

定期的な進路調査・面談を実施する。受験校又は応募企業を早期に決定することで、指導、準備がより万全となるため、学生と職員の意思疎通を図り、進路決定の早期化を促進させる。

- (iii) 進路指導に関する情報収集の強化

日々変化する留学生の進学・就職状況を精緻に把握し、適切な進路指導を行うため、教員は日頃より関係機関の研修やセミナーに積極的に参加し、進路に関する情報をアップデートする。

- (iv) 計画的な進路指導の実施

進学や就職イベントに積極的に参加させ、大学・専門学校をはじめ、企業に対する見聞を広げ、進学や就職試験に備えるとともに、受験生あるいは就活生としての意識を自覚させる。また、外国人人材雇用促進企業の校内企業説明会等の誘致が学生自身のスキルアップとして日本語能力に関する資格にとどまらず、ビジネス日本語検定、ビジネスマナー検定、ITパスポート等の資格試験に挑戦させ、日本語能力に関する資格以外にも就職に有利となる資格取得を目指すよう指導を行う。

- (v) 計画的なインターンシップの実施

アルバイト先では経験できない日本企業での実務を経験することで、「就職」への意識を高めていく。また、就職後の希望職種と実務とのミスマッチによる早期離職の防止のほか、学生の希望や適性、能力に応じた企業を取捨選択できる判断力を育成する。そのためのインターンシップ先の開拓を強化する。

(vi) 進路相談体制の強化

各学科やクラス、教科、教員と事務方等との枠を超えた全員体制で、入学から卒業まで、一貫した進路指導を行う。進学者に対しては、受験スケジュール（出願期間・試験日・入学手続等）管理の共有をし、就職内定者に対しては在留資格変更に関する情報・必要書類準備の周知及び内定先企業及び行政書士と連携し、在留資格変更申請に遺漏がないようにする。

(vii) 新型コロナ禍における進路指導の対策

新型コロナウイルス感染症が留学生の求人にどのような影響を与えているかを正確に把握し、日本での就職を希望する学生に対し、現実的な進路として、どのような分野、どの地域で就職を目指すのか等、情報収集を適宜行い、明示、指導を行う。また、帰国を希望者には、現地日系企業での就職先に道筋をつけ、大学編入を目指す者には、進学指導を行い、特定技能での就労を希望する者には、技術試験を受験させる等、個々の能力と希望を見極め、適切かつ多様な進路を提案する。

3 学級担任

課程	系	区別	学 科 名	1 年	2 年
工業専門課程	建築系	昼間	研究科	戸澤まり子	—
			建築学科	平上 秀明	平上 秀明
			住宅デザイン科	吉田 知恵	吉田 知恵
			インテリアデザイン科	戸澤まり子	唐木 恵美
文化・専門課程 教養課程	国際系	昼間	ブリッジシステムエンジニア科	大串いづみ	井手 万里
		昼間	国際コミュニケーション科	大串いづみ	—
			日越通訳・翻訳科	大串いづみ	PHAN VAN TAM

4 教務室分掌構成員

部 門	分 掌	担 当 者
事務部門	総務・労務	原 充介、檜崎 悟志、上本 佳直、山下 幸代、野村 裕子、北野 裕子
	経理	原 充介、檜崎 悟志、上本 佳直、嶋田 享子
	管財	原 充介、檜崎 悟志、上本 佳直、魚住 正治
教育部門	教育	原 充介、檜崎 悟志、上本 佳直、魚住 正治、野村 裕子、北野 裕子
	教務	原 充介、檜崎 悟志、上本 佳直、魚住 正治、山下 幸代、野村 裕子、北野 裕子、嶋田享子
	生涯学習	原 充介、檜崎 悟志、上本 佳直、山下 幸代、野村 裕子

5 建築系広報・進路部門分掌構成員

部 門	分 掌	担 当 者
広報・進路部門	広報	中島 征治、清本 真沙実、村上 千里、諸岡 邦行、藤井 紫真
	出願	中島 征治、清本 真沙実、村上 千里、諸岡 邦行、藤井 紫真
	受付	中島 征治、清本 真沙実、村上 千里、諸岡 邦行、藤井 紫真
	進路指導	中島 征治、林殿 泉、溝口 有里、岡田 ひろみ
	図書	中島 征治、林殿 泉、溝口 有里、岡田 ひろみ

6 国際系広報・進路部門分掌構成員

部 門	分 掌	担 当 者
広報・進路部門	広報	大串 いづみ、金村 優美、十場 幸子、廣瀬 良子
	出願	大串 いづみ、金村 優美、栗本 真里、十場 幸子、廣瀬 良子
	受付	大串 いづみ、金村 優美、栗本 真里、十場 幸子、廣瀬 良子
	進路指導	大串 いづみ、井手 万里、PHAN VAN TAM、金村 優美、栗本 真里、十場 幸子、廣瀬 良子
	図書	金村 優美、栗本 真里、十場 幸子、廣瀬 良子

1 本年度の基本方針

本校の各部署においては、本年度、下記の事項に留意し、安定した学校基盤を構築し、円滑な学校運営を推進する。

(ア) 教務室

- (a) 職員間の共通理解と協働体制を向上させ、計画的かつ円滑な校務運営を目指す。
- (b) 業務の担当領域の明確化を図り、組織的で合理的な遂行に努める。
- (c) 学校施設の適切な維持管理と施設状況の把握を行い、計画的な保全を実施することで学校施設の長寿命化を推進する。
- (d) 学内情報管理システムのすべての機能を本格活用し、円滑な運用と学校全体の業務の合理化・迅速化を推進する。
- (e) 個人情報に関する書類等の管理・取り扱いの厳格化を図る。
- (f) 学費未納者及び学費滞納者に対する対処の厳格化と徴収方法を検討する。
- (g) 高等教育修学支援制度の学生への周知徹底とその業務の円滑な遂行に努める。
- (h) 高大接続改革に関する情報を収集し、建築系と連携して対応策を検討する。

(イ) 建築系

- (a) 新型コロナウイルス感染症の影響による社会の変化に対応するため、教育内容及び教育環境を見直す。
- (b) 実践的な能力を備えた人材を育成するため、産学協働を意識した演習授業の充実に努める。
- (c) 職員は自己研鑽に努め、学生の多様性と個性を尊重した、成果の挙がる教育方法と学級運営方法を習得し、その力を向上させる。
- (d) 学生の理解度・満足度を向上させ、授業の質を確保しつつ、学生の午後5時下校を促進するため、授業内容・実施計画を見直すにあたり、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度より実施している遠隔授業の効果的な運用方法を見出す。
- (e) 一級・二級建築士試験合格を支援するための具体的な仕組みづくりを検討する。

(ウ) 国際系

- (ア) 特色ある授業や卒業後の進路に応じた教育をはじめ、在籍管理をきめ細かく行い、留学生や日本語教育機関からの信頼を一層深め、持続的な定員充足に努める。
- (イ) 業務に対する共通目標と協働体制の意識を堅持し、業務の質的向上を促進させ、計画的かつ円滑な運営を目指す。
- (ウ) 日越通訳・翻訳科及びブリッジシステムエンジニア科において、企業・官公庁のほ

か、他の専門学校と連携を深め、社会のニーズに即した人材育成を推進する。

(エ) すべての留学生に日本語能力試験のほか、大学進学希望の留学生に日本留学試験、就職希望の留学生にビジネス日本語能力検定等を受験させ、進路の選択幅の拡大を図る。

(オ) 新型コロナ禍での留学生に対する企業の求人動向を注視し、情報収集に努め、オンライン企業説明会等への学生の積極的な参加を促す。また、インターンシップ先や就職先の開拓に、より一層努める。

(カ) 入国制限による国内留学生減少における大学・専門学校の入試への影響を探り、学生の志望校の目標設定時の判断材料にする。

2 本年度の留意事項

(1) 学校運営

(ア) 学校経営の健全化の促進

(a) 学生数の増加の促進

18歳人口が2018（平成30）年度から急減期に入り、大学入試改革、近隣の大学における建築系学科の新設等により、本校の学生募集は極めて厳しい状況にある。

また、新型コロナウイルス感染症の影響で経済的に進学をあきらめたり、都市部への進学が敬遠されたりする懸念もある。

そのような中、「資料請求数」「イベント参加者数」「出願数」「入学者数」のステップに基づく歩留り率を把握し、実績の変化から課題を抽出したうえで、全校一致の広報体制づくりを築き上げるようにする。

また、本校のストロングポイントを一貫して訴求し、入学者の早期獲得・増加につながるようにする。

(b) 休学・退学防止策の検討

オンライン授業が今後も実施継続となることを前提に、学校生活の充実や仲間づくりを促すための、仕組みを確立する。オリエンテーションやガイダンス、A S Hの内容を工夫し、学業継続の目的を失わないための情報提供や自信と希望が持てる経験をさせることを意識する。

また、常に個々の学生の状況を把握し、気になることがある学生については、保護者と連携して早期に対処するために、授業前、授業後に学生の理解度や授業態度について確認を行う等、非常勤講師との連携を深める。

さらに、全員の出席率が90%以上となるようにクラス全体に対する教員の指導スキル向上を目指す。

(c) 国際系の安定した運営・経営方向の検討

新型コロナウイルス感染症の水際対策である入国制限により、今年度は日本語教育機関の在籍学生数が極めて少ない状況となる。そのため、昨年度、在籍する留学生の卒業延長措置を講じた日本語教育機関への営業活動をより早期に開始し、各校の卒業予定者数及び進学希望者数を把握し、日越通訳・翻訳科とブリッジシステムエンジニア科出願に向け、計画的に広報活動を展開する。

また、国際コミュニケーション科に関しては、入国制限により、日本語教育機関で「基礎日本語」を学んだ学生がほとんどいない現状と昨年度の募集において、本校のみならず、他校の「応用日本語」のコースでも大幅な定員割れをしている状況を鑑み、今年度は新たな留学生の募集を休止する。

新型コロナウイルス感染症の発生以降、外国人の日本への「留学」というニーズが少しずつ変化している。その中で、経営の安定化を図るため、ブリッジシステムエンジニア科への日本人学生の入学を目指す新たな広報活動を模索する。日本人を含む多国籍クラスを実現し、他校にはない本校の特色を打ち出す。

(d) 内部進学者の増加の促進

進路選択の一つとして、建築系においては、建築学科、住宅デザイン科の半数程度を研究科へ進学させることを目指す。そのために、研究科の存在感を合格実績だけでなく、交流の場を設ける等して、1年生に魅力をアピールする。

国際系においては国際コミュニケーション科からの日越通訳・翻訳科及びブリッジシステムエンジニア科への内部進学が選択の一つになるよう、普段から両科の授業見学や体験授業を行い、内部進学者を増加させるよう努める。

(e) 合理的な広報活動の方策の確立

建築系においては、オープンキャンパス等の広報イベントのほか、高校訪問や会場・校内ガイダンスの参加等について、学内情報管理システムを活用し、昨年度の実績数値の把握ときめ細かい検証を行い、効果的な広報活動の展開に努める。

オープンキャンパスではわかりやすく、魅力的に教育内容をアピールするための見直しを常に行い、やる気ある参加者にとって入学の決め手となるよう工夫する。

建築系留学生の広報活動を国際系と集約し、ホームページや募集要項オープンキャンパスにて配布する資料、説明内容等に不整合がなく、ビジュアル的な統一

感に留意する

国際系においては、これまでに日本語教育機関と築いてきた信頼関係を、さらに強固にすべく、きめ細かく丁寧な営業活動を継続して行う。

また、1期生の進路実績や他校にない課外研修等、本校の特色を積極的にアピールしていく。

(イ) 特色ある学校づくりの推進

(a) 環境教育の促進

資格試験対策の授業の中で選択できたe c o検定（環境社会検定試験）対策の授業は、令和4年度から実施しないこととしたが、設計課題等に環境配慮の発想を取り入れ、環境問題の解決のための手法を理解させることを目指す。建築学科設備コースはもとより、建築系全体で充実させていく。

(b) B I M教育の推進

建築学科においては、B I Mの特性を実感できるようにし、その基本操作を確実に習得することを目指す。意識や能力の高い学生については、現場に即したB I Mの技術の習得を目指し、企業と連携して指導内容を発展させていく。

(c) 資格取得の推進

建築系においては、資格取得率の改善を図るために、対策授業においては、試験までのスケジュール管理が自らできるようにシラバスを配布し、自己管理能力の向上を支援する。

国際系においては、日本語能力に関する資格にとどまらず、ビジネス日本語検定、ビジネスマナー検定、I Tパスポート等の就職に有利となる資格取得を目指す。

(d) 人間涵養教育の推進

令和4年度は、コミュニケーション、目標設定、セルフマネジメント等を目的の中心にした新入生オリエンテーションとしての軽井沢代替研修をさらに充実させていく。

国際系においては、「自主、自覚、自律」を基本方針とした教育を推進し、自立した人材の育成に努める。

(e) 建築士試験の受験要件緩和への対応

令和3年度末に一級、二級同時受験を意識させるための模擬テストを実施したところ、研究科進学者の中に、同時受験志願者が出てきたため、学校としてのサポートを模索し、可能な限り様々なことを試みて次年度以降の発展につなげてい

く。

(f) 施設・設備の充実化

老朽化あるいは劣化の著しい施設の改修、及び設備の整備・充実化を適切に進める。

(ウ) 業務の効率の向上

(a) 業務の合理化

引き続き、人員不足の解消に努めるとともに、業務の合理化を図り、定時退勤及び時間外勤務の削減を促進する。

(b) 業務内容の点検・見直しの促進

引き続き、業務内容の点検・見直しをきめ細かく行い、よりよい学校運営ができるよう業務改善を図る。

(c) 学内情報管理システムの活用

昨年度から学内情報管理システムを活用し、学籍管理や成績管理を行っていったが、今年度からは出席管理も行い、不要な業務の見直しや文書の簡素化、さらなる業務の効率化を図る。

(d) Google for Education 導入の検討

建築系では、東京校の協力により、Google for Education の導入を検討中であるが、令和4年度は試用期間の予定にしており、学生管理、業務効率向上につなげたい。

(e) 職員間の相互扶助の促進

職員間の一体感を高めるため、業務内容の相互理解を深め、適切な扶助のための動きが取れるようにする。そのため、頻繁にショートミーティングを行うことや、一人ひとりのパフォーマンスの向上も必要である。

(エ) 職場環境の改善

(a) 挨拶の励行

職員間のもとより、学生、来客等への挨拶を励行し、明るい学校及び職場づくりに心掛ける。日々のコミュニケーションが自然にできる環境づくりは、挨拶からであることを意識する。

(b) マナーの向上

職員としての服装や言葉遣い等に留意し、誰に対しても敬意を持って丁寧に接する。また、「学生生活のしおり」が、形だけのものにならないよう、職員が率先して「学生生活のしおり」にあることを態度で示し、学生・留学生の手本となる

ようにする。

(c) 校内美化と整理・整頓の推進

ポスター等の適切な掲示や物品等の整理・整頓、教室の美化を心掛け、良質な学習環境を維持する。

(d) 作品等の掲示・展示方法の改善

学生・留学生の作品の展示をはじめ、資格の合格者、コンペの結果等をできるだけ早く掲示・公表し、祝賀ムードを盛り上げる工夫をする。建築系及び国際系の特徴・学校らしさや心andraげる雰囲気醸成する。

(e) 職員間の情報の共有

部署ごとのミーティングを定期的開催し、学生・留学生の情報や職員が個別に抱える課題等の共有を図り、風通しのよい職場環境を整えるようにする。

また、互いに謙虚な気持ちや学び合う姿勢、相互扶助の精神を持つとともに、全員が専門性を常に高める努力を怠ることなく、誰もが人材の育成を担う意識を持つ。

(オ) 附帯教育事業の充実化

(a) 新規プログラムの研究・開発

地域や社会の課題、産業界、関係団体等のニーズを適切に把握し、新たな生涯教育を研究・開発する。

(b) 産学連携プログラムの開発

求人やインターンシップを通じて企業等から積極的に産学連携に係わる情報を収集し、ニーズの高い魅力あるプログラムとして、業界の情報や知見が集積している本校の強みを活かした、業界向けのセミナー等を開発する。

将来は、業界の情報や研修の拠点として、広く活用してもらえることを目指す。

(c) 中央工学校生涯学習室等との連携強化

中央工学校生涯学習室等と連携し、新しい講座を開拓する。

(d) 外部機関等への教室の貸し出しの促進

日程や収容人数等が可能な限り、各種講習会や各種試験等への教室の貸し出しを積極的に行う。

(e) (学) 中央工学校OSAKA一級建築士事務所の目的

建築設計に関する幅広い知見を有している本校が設計事務所として実務に携わることの意義を意識し、社会に貢献できる設計事務所となることを目指す。

現在、中央工学校OSAKA一級建築士事務所では、初めて新築住宅の設計監

理契約を締結し、着工準備中である。本校の有する知見を施主と社会に還元し、貢献するとともに、現場の実務を学ぶ本校の授業や、本校の学生・留学生の成長の一助となる業務とすることに重点を置き、無事な竣工を目指す。

(カ) 非常勤講師との連携の促進

(a) 情報の共有化

クラウド型学内情報管理システムの導入をさらに発展させ、益々の充実を図る。また、非常勤講師から学生への資料配布や連絡、作品回収等を円滑に行うためのシステムの導入も令和5年度の運用を目指し、進めていく。

(b) 学校行事への参加の促進

卒業成果・制作発表会等の学校行事の多くが、オンライン化しており、ライブ感の共有が難しいという弊害が起きている。非常勤講師の協力を得て、校外のイベントへの参加も促進し、体験から学ぶ機会の充実を図る。

(c) 意見交換会の開催

職員と非常勤講師の意見交換会を適宜開催し、授業運営やインターンシップ、就職、広報活動等を改善する。活発な意見交換会のために、非常勤講師全員への開催の周知や議事録の公開等の工夫をする。

(d) 学科内方針の共有

学科内で授業の到達目標を具体的に設定し、科目ごとの連携・引継ぎは、担任がコントロールしていく。さらに、学生・留学生への指導方針を定め、職員と非常勤職員の間で共有し、スムーズな対応が行えるようにする。

また、非常勤講師からの意見や提言をもとに、授業方針の改善・見直しを行い、現場の実情に沿ったカリキュラム、授業であり続けるために努力する。

(キ) 職業実践専門課程に係わる取り組みの推進

(a) 企業等と連携した実習・演習等の実施

建築系ではインターンシップのほか、企業等と連携したプロジェクトやプログラムを実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響でインターンシップの受け入れを断られたり、中止を検討したりしなければならないケースも増えている。

そのような中でも、職業実践専門課程として、日々変化する現場の状況に即した技術を確実に習得させ、専門性の充実化及び高度化を図れるよう、オンラインを活用した実施方法の検討や内容の見直しを継続して行う。

(b) 企業等と連携した職員研修の実施

教員の指導力向上を図るため、オンライン授業におけるファシリテーション技

術習得のための研修や専門分野における中・長期の研修について検討する。

また、関係専門分野の企業等と連携した見学を中心とした研修も引き続き行っていく。

(c) 教育課程編成委員会等の意見の活用

教育課程編成委員会における意見・提案等を踏まえ、授業内容やカリキュラムの改善等を継続して行うとともに、社会のニーズに即した教育や教員の資質向上にも役立てる。

(d) 学校関係者評価書の作成・公開

学校関係者評価は、あらかじめ職員が作成した学校自己評価に基づいて定期的に行っており、学校関係者評価書をホームページで公開している。

また、学校関係者評価の作成・公開は、一昨年度から実施された「高等教育段階の教育費負担軽減新制度」（高等教育の無償化）の機関要件の一つでもある。

これらのことを踏まえ、学校関係者評価書の作成を通じて問題点や課題を抽出し、学校運営の改善と発展を目指すとともに、公開によって学校への理解を一層得られるようにする。

(ク) 国際系の取り組み

(a) 入学者数の安定的確保

目的意識がはっきりしていて出席率が高く、経費支弁状況が明確な留学生を確保する。また、新型コロナウイルス感染症収束後の留学生事業を見据え、ブリッジシステムエンジニア科への日本人学生の入学を目指していく。

(b) 入学後の在留資格更新の円滑化

入学者すべての在留資格更新が円滑に行えるよう、送り出しの日本語教育機関と連携を図り、在留期限の把握、必要書類の収集、精査を徹底する。

(c) 除籍・退学の防止

出席率の管理、在留カードのチェック等をきめ細かく行うとともに、留学生の言動に留意し、除籍・退学の防止に努める。退学抑止のため、生活やアルバイト状況に気を配り、常にアルバイト紹介等が行えるよう、企業と連携し、求人情報を把握しておく。

また、母国の経費支弁者の経済状況も把握し、経済的困難に陥った学生がやむを得ず新たな進路を選択する際は、除籍とならないよう、適切な指導を行い、在留資格変更を必ず行う。

(d) 各学科の特色の鮮明化

国際コミュニケーション科においては、少人数クラスでのきめ細かな日本語指導、進路指導を行い、これまで同様に全員の第一志望合格を目指す。

日越通訳・翻訳科においては、就職後を見据え、より実践的な内容を題材にした通訳・翻訳の授業を実施する。また、インターンシップを通じ、現場での対応力やマネジメント力、判断力を身につける。

ブリッジシステムエンジニア科では、就職先となる企業のニーズを踏まえたカリキュラムによる実践的な教育を展開し、様々な業種でのインターンシップを通じ、本科の3つの学び「建築」・「製造」・「プログラミング」の中から自分に合う分野を発見させ、就職後のミスマッチが起きないようにする。

就職を目指す「日越通訳・翻訳科」、「ブリッジシステムエンジニア科」の両学科では、1年次より授業内で企業招集、会社説明会等を行い、早期よりインターンシップを取り入れ、就職活動への意識形成を行う。

(e) 実践的日本語力の取得の強化

日本語能力試験の対策とともに、就職を目指す「日越通訳・翻訳科」、「ブリッジシステムエンジニア科」の2学科においては、ビジネス日本語やプレゼン力を身につけ、日本語の運用力を高める。また、専門科目での理解不足がおきないように、専門用語の日本語フォローに努める。

(f) 国際コミュニケーション科の今後の在り方の検討

国際コミュニケーション科においては、文部科学省及び出入国在留管理庁が示す「専ら日本語教育を行う別科」への対応策に留意するとともに、今後の外国人の「日本留学」のニーズの変化や日本企業の「労働力」としての外国人人材のニーズを注視し、学科の継続の在り方について慎重に検討していく。

(g) カリキュラムの見直しの検討

経営と教育のバランス、社会の変化やニーズに留意し、常に柔軟にカリキュラムの見直しや変更を検討し、学生や企業から選ばれる学校を目指す。

(2) 学習指導

(ア) 重点事項

(a) 学校行事及び研修内容の見直し

軽井沢研修は、令和4年度も校内代替研修とする。他の研修についても、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、令和3年度の研修は、そのほとんどを校内代替研修としたが、その実施状況を踏まえ、オンラインや屋外の活動を適切

に取り入れ、内容を充実させていく。

また、卒業成果・制作発表会については、期せずして、遠隔プレゼンテーションに対応した表現を学ぶよい機会となっている。しかし、卒業成果・制作作品集については、指導不足による不備が散見されたため、そのあり方を見直し、目的や、成果を明確にし、最適な形に改善する。

国際系においては、学校とアルバイトの往復だけになりがちな留学生に、さまざまな体験を授業内で経験できるように、課外活動や校外学習を取り入れる。これらの活動を通して団体行動の大切さやクラスの団結力を培い、異文化への興味、社会への関心が広がるよう、また2年間という限られた学生生活の中で友人との思いで作りの場となるような機会を提供する。

(b) 学生ラウンジの活用

学生ラウンジを学生・留学生や職員の食事のほか、学生・留学生間及び学生・留学生・職員・非常勤講師間の交流、クラブ活動、セミナー、作品展示、地域開放の場等としての活用を一層進める。

(c) 中央工学校グループ校との連携の強化

建築系においては、引き続き、国内建築研修において、東京実施が可能ならば、中央工学校の充実した新校舎設備を使った授業の実施を検討し、さらにその際の学生・留学生間の交流等発展を目指す。

この2年で、両校のオンライン授業に関する知見がそれぞれ蓄積されたが、令和4年度は、それらを効率よく共有し、双方の教育における合理化につなげる。

国際系においては、グループ4校の留学生担当職員と定期的に意見交換、情報交換を行い、在籍状況や留学生に関する事案、問題点について共有する。

(d) 日本の伝統文化の体験の促進

隣接する服部緑地の日本民家集落博物館を利用した古民家の見学会の充実や万博記念公園内の日本庭園及び迎賓館の見学等から、興味・関心を高め、学生・留学生のわが国の伝統文化に接する機会を引き続き充実させていく。

(e) 教育成果の外部への発信の推進

広報職員と連携して、ホームページや学校アプリ等の各種広報媒体を通じ、授業をはじめ、コンペの成果、学校行事・クラブ活動の様子等、日頃の教育成果を、引き続き積極的に外部に発信し、反応を分析し、改善につなげる。

学生・留学生のアイデア、デザイン成果については、学生個人の著作権を守りつつ、広く社会に役立てることができるよう、製品化や特許や意匠登録の権利取

得について引き続き模索していく。

(イ) 建築系

(a) 目標

◇『厳しい実務教育』、『人間涵養教育』

(b) 基本方針

(i) 各学科の特色化の推進

(ii) B I M教育及び環境教育の充実

(iii) 明確かつ適切な目標設定による授業の理解度・習熟度の向上

(iv) 内部進学を踏まえた研究科の目的・カリキュラムの見直し

(v) 遅刻・早退・欠席者及び休・退学者の削減

(vi) プレゼンテーション能力の向上

(vii) 各種コンペティション参加の促進

(viii) 資格取得の促進

(c) 具体的方策

(i) 各学科の特色化の推進

◇研究科

二級建築士建築士試験の合格率の向上及び後期の学習内容の充実を図る。

一級建築士受験準備のための本校の方針を固め、令和5年度からの実施を目指す。

◇建築学科

建築設計演習Ⅰ（1年次必修）において、課題内容と、授業時間が合致しておらず、困難な状況があったため、関連授業と共に調整を加え、令和4年入学者より新カリキュラムとする。

◇住宅デザイン科

住宅設計に関する現場を実感させ、実務力の向上を図るため、令和4年入学者よりカリキュラムに変更を加えた。

また、C A Dソフトとして、住宅業界で多く採用されているアーキトレンドを導入する。

◇インテリアデザイン科

引き続き、デザイン教育の充実を図り、学生の習熟度向上によって、デザイナーとして独立、自営を目指す経営戦略を身につける教育を強化する。

(ii) B I M教育及び環境教育の充実

- ①B I M関連ソフト（専門科目・演習科目）を使用する授業の増加を図る。
- ②環境問題の理解とS D G sの概念の浸透を意識する。
- (iii) 明確かつ適切な目標設定による授業の理解度・習熟度の向上
 - ①具体的な目標をシラバスに明記し、シラバスを十分に活用する。
 - ②各科目の連携を意識し、学生の習熟プロセスに見合う目標を学生・留学生に示す。
- (iv) 一級建築士受験を見据えた研究科のカリキュラムの見直しの検討
 - ①一級建築士受験を意識させる機会を増やし、一級の内容にも触れるようにする。
 - ②研究科後期授業をさらに充実させる。
- (v) 遅刻・早退・欠席者及び休・退学者の削減
学生本人が、自己管理しやすい工夫と指導に努める。
- (vi) プレゼンテーション能力の向上
日頃の作品発表においては、伝えたいことを時間内で魅力的に伝えるための作品情報の編集能力を養うための仕組みを構築する。
- (vii) 各種コンペティション参加の促進
同時期に実施されている授業との連携等も考慮し、学生の意欲の継続を支援する必要がある。無理なスケジュール等を見直し、環境にも工夫することで、結果につなげ、より一層のレベル向上を図る。
- (viii) 資格取得の促進
自分にとって必要で、頑張れば取得できる資格に自主的に挑戦させ、スケジュールを自己管理することも指導する。

(ウ) 国際系

- (a) 目標
 - ◇「質の高い日本語教育と専門教育の実施」に留意する
- (b) 基本方針
 - (i) 特色あるカリキュラムの編成
 - (ii) 授業の理解度・習熟度の向上
 - (iii) 地域活動及び異文化交流・社会貢献の推進
 - (iv) 課外授業の充実による他校との差別化
 - (v) 生活指導の徹底
- (c) 具体的方策

(i) 特色あるカリキュラムの編成及び授業理解度・習熟度の向上

◇国際コミュニケーション科

- ①大学進学希望者の日本語応用力・読解力・聴解力の向上
- ②専門学校進学希望者に対する日本語能力試験対策授業の強化し、N2の合格率を向上
- ③志望動機・研究計画書の作成方法、面接、身だしなみの指導の徹底

◇日越通訳・翻訳科

- ①通訳者・翻訳者に求められる語学の運用力、理解力の向上、及び日本語の上級レベル（N1）への到達
- ②ビジネスマナー、パソコンスキル、キャリアアップ教育の促進
- ③就職後に求められるチームワーク力、マネジメント力の育成
- ④ボーダレス社会で活躍できるヒューマン・コミュニケーション能力に優れた人材の育成

◇ブリッジシステムエンジニア科

- ①専門科目の習熟度を高めるための専門用語の日本語フォローアップ
- ②建築・機械・ITの3分野の学習による幅広い業種に対応できる基礎知識の修得
- ③母国と日本の架け橋となるための語学力、技術力、知識力の養成

(ii) 地域活動・社会貢献・課外活動の充実

アルバイトと学校の往復だけになりがちな留学生にとって、クラスメイトとの研修や校外活動は団体行動を学ぶ上でよい機会となり、また、よい思い出づくりの場となる。クラス内の団結が高まることで進学や就職活動への効果をもたらすという利点もあり、緑地公園の清掃という社会貢献活動をとおして、地域との連携や学生自身の道德心を育む。

(iii) 在籍管理とマナーの育成

日頃から一人ひとりの行動に留意し、出席率の95%維持に努めるとともに、学習態度や生活態度の変化を見逃さないよう、職員全員が情報共有し、早期発見、早期指導を行う。また、社会に出た時に恥ずかしくないよう、日頃からマナーを意識させ、挨拶、服装、言葉遣い、整理・整頓等に留意する。

(3) 学生・留学生指導

(ア) 個別指導

- (a) 日頃から学生・留学生をよく観察し、悩みや問題点を持つ学生・留学生の早期発見に努め、休・退学を防止する。
- (b) 日頃から学生・留学生の就学状況を保護者と共有できる体制を構築する。
- (c) 教育懇談会等をとおして、家庭の実態を把握し、保護者との信頼関係を築く。
- (d) 学生生活や留学生生活をとおして、規律ある生活態度や社会人として必要なマナーを身に付けさせるにあたり、職員、学校関係者、学校の学生対応についても、常に、良心的で、誠実を心がけ、学生・留学生に見られていることを忘れないようにする。

(イ) 集団指導

- (a) 学校内での学習や生活だけでなく、地域活動等にも積極的に参加を促し、立場や背景の異なる他者との良好な関係を築き、秩序ある行動の重要性を指導する。
- (b) さまざまな学校行事や、グループ課題において、自分の考えや意見を伝えながら、他者と協力して、一人ではできないことをチームで達成する経験から、対話の重要性や組織の一員としての動きを理解させる。
- (c) A S Hや入学時のガイダンス等では、異なる背景や文化への理解を促進させるように留意する。また、A S H、課外学習の時間は、2年間を通して、職業観だけでなく、視野が広がるような取り組みを企画し、実施する。
- (d) 引き続き、未成年者の喫煙指導は徹底し、公共のマナーに対する意識の向上を図る。

(ウ) 交通安全教育

- (a) 通学途上における交通マナーを向上させ、交通事故を防止する。
- (b) 自己及び他者の生命の大切さを自覚させ、無謀な運転を防止する。
- (c) 留学生に対し、日本国内の交通マナーに関する理解の徹底を図る。

(エ) 図書室の利用指導

- (a) 専門図書のほか、幅広い教養を身に付けるための一般図書を充実させる。
- (b) 学生・留学生の読書傾向を調査し、ニーズの高い図書を拡充する。
- (c) 学生・留学生が親しみやすく、学習しやすい場となるような雰囲気にする。
- (d) 書籍だけでなくW E B等を活用し、常に新しい情報等が閲覧できるようにする。

(4) 進路指導の重点

(ア) 重点事項

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、合同企業説明会等の就職活動イベントや

会社説明会が各地で中止や延期、規模が縮小され、建設業界においても就職活動に大きく影響している。

このような状況の中、本校では、キャリア教育の実践等をとおして、すべての学生・留学生在が夢や希望を持ち、自己が求める企業に就職活動の時期を逸することなく、早期に就職できるようにする。

このほか、学生・留学生在の適性、興味・関心等を踏まえ、自らの職業観・勤労観を培い、社会人として必要な資質能力を形成していくことができるようにするため、経済産業省が職場や地域社会で暮らしていく必要な力として提唱している「社会人基礎力」、すなわち、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」を身に付けさせる。

また、今後の新型コロナウイルス感染症が求人や就職活動にどのように影響を与えているかを正確に把握し、情報収集を行い、進路指導を行う。

(イ) 建築系

(a) 目標

学生・留学生在が自己を正しく理解し、自らの意志と責任で進路を選択する能力を育成する。

(b) 基本方針

- (i) 自己実現に向けた自主性の育成
- (ii) 計画的な進路ガイダンス及び進路指導の推進（学級担任との連携強化）
- (iii) 学生・留学生在の就職活動の早期化の促進
- (iv) 就職に繋がる効果的なインターンシップの実施
- (v) 研究科への内部進学 of 促進
- (vi) 新型コロナ禍における就職活動の対策

(c) 具体的方策

(i) 学級担任及び職員間の情報共有の徹底

各学科やクラス、教科等と連携を密にして、入学から卒業までを見とおした進路指導計画を立案するとともに、学生・留学生在一人ひとりが自らの考えや行動等に基づいて、自己実現を果たす能力を育成する。

学級担任と連携し、学生・留学生在の職業観・勤労観を育成するとともに、自己分析や企業研究をはじめ、学校求人や自己開拓での就職活動の方法・手段を計画的に指導する。

また、履歴書の作成方法や採用選考等の指導、進路相談等を個別に行い、就

職内定へ向けたサポートをきめ細かく行う。

(ii) 進路指導に係るセミナーへの参加の推進

進路指導の改善・向上のため、関係諸団体主催の研修会等に積極的に参加し、企業との関係を強化する。

(iii) 就職活動の早期化に即した計画的な進路ガイダンスの実践（進路指導の充実化）

求人公開の早期化を図るため、求人依頼を1月に行うとともに、キャリアマップで求人受付を随時行い、公開できるようにする。

①就職指導サポートシステム（キャリアマップ※）の活用

※（一社）大阪府専修学校各種学校連合会（大専各）が推進するシステム

- ・大専各のスケールメリットを活かした求人情報（新規・既卒）の提供
- ・新規求人票のデータ入力、データ更新の代行（キャリアマップ法人事務局）
- ・就職活動の進捗状況の記録（応募、面接、内定承諾等）と学級担任との情報共有
- ・会社説明会等の学生への一斉告知（メッセージボックスによる最新情報の提供）
- ・求人票の整理やデータ入力の効率化による学生・留学生へのキャリア教育・進路指導の強化

②就職支援サイト担当者による進路ガイダンスの充実化

マイナビやリクナビ等による就職支援サイトの登録や活用方法の指導を行う等、進路ガイダンスの充実化を図り、就職支援サイト主催の就職セミナーへの参加方法やイベントの告知をきめ細かく行い、就職活動に対する意識の強化と早期化を促すようにする。

③インターンシップの実施

希望職種と実務とのミスマッチによる早期離職の防止のほか、学生・留学生の希望や適性、能力に応じた企業等への採用内定を促進させるため、産学接続を踏まえたより効果的なインターンシップを実施する。

就職活動の時期を逸することなく、学生・留学生が自らの意志と責任でインターンシップ先や就職先を決定することができるようにするため、4月に本校とキャリアマップ合同による合同企業説明会をオンラインで開催する。

(iv) インターネットの活用の推進

学生・留学生一人ひとりが自ら積極的に企業研究や情報収集、求人応募エン

トリー等を行えるようにするため、インターネットを利用した就職支援サイト（マイナビ・キャリアタス等）の活用について、進路ガイダンス等をとおして指導する。

（v）校内企業説明会及び合同説明会の開催（主催：本校及びキャリアマップ）

インターンシップ先の検討及び就職活動の一環として、本校及びキャリアマップ主催の合同企業説明会をオンラインで開催する。採用実績があり、インターンシップや求人を受け付けている建築、住宅、インテリア、B I M等の分野の企業を招聘し、オンラインで人事担当者や卒業生からの自社の業務内容や雇用条件等の説明を踏まえ、自らが望む企業への採用や業務への従事等を促進させるようにする。

（vi）新規求人企業開拓の推進と求人企業の見直し（求人企業・求人数の確保）

①新規求人開拓の促進

進路希望調査をもとに、一人ひとりの学生・留学生の希望分野・職種等について適切に把握するとともに、関係の大手企業や優良企業に対する求人開拓を積極的に行う。また、留学生の受け入れ企業の情報収集や求人開拓等を行う。

②関係団体との連携・産学共同プロジェクトの促進

外部団体が開催しているセミナーや講習会等に学生・留学生を積極的に参加させ、建築に係わる幅広い知識・技術を習得させるようにする。

また、産学協同プロジェクトをとおして、企業が求める能力（社会人基礎力）や人材等を把握し、教育に反映させ、魅力ある学校づくりを進めるようにする。

（vii）研究科への内部進学への促進

進学ガイダンスや個人面談を計画的にきめ細かく行い、広報と連携し、研究科への内部進学を促進する。

（viii）新型コロナ禍における進路指導について

新型コロナウイルス感染症が求人や就職活動にどのように影響を与えているかを正確に把握し、情報収集を行い、進路指導を行う。

（ix）校友会との連携の促進

校友会（同窓会）と連携し、卒業生の社会的貢献活動や離転職等の状況を的確に把握する。

（ウ）国際系

（a）目標

留学生が自己を正しく理解し、自らの意志と責任で進路を選択する能力を育成

する。

(b) 基本方針

- (i) 手厚い進路指導による学生の高い満足度と信頼度の獲得
- (ii) 希望進路の早期把握と実現に向けた活動の強化
- (iii) 進路指導に関する情報収集の強化
- (iv) 計画的な進路指導の実施
- (v) 計画的なインターンシップの実施
- (vi) 進路相談体制の強化
- (vii) 新型コロナ禍におけるオンライン企業説明会等の参加の促進

(c) 具体的方策

- (i) 手厚い進路指導による学生の高い満足度と信頼度の獲得

留学生一人ひとりが自らの考えや行動等に基づいて、自己実現を果たす能力を育成する。学生の職業観・勤労観・将来像を育成するとともに、大学や日本企業が留学生に求める人物像を分析し、学校選び、就職活動の方法・手段を計画的かつきめ細かくアドバイスし、希望進路へと導く。

- (ii) 希望進路の早期把握と実現に向けた活動の強化

定期的な進路調査・面談を実施する。受験校又は応募企業を早期に決定することで、指導、準備がより万全となるため、学生と職員の意思疎通を図り、進路決定の早期化を促進させる。

- (iii) 進路指導に関する情報収集の強化

日々変化する留学生の進学・就職状況を精緻に把握し、適切な進路指導を行うため、教員は日頃より関係機関の研修やセミナーに積極的に参加し、進路に関する情報をアップデートする。

- (iv) 計画的な進路指導の実施

進学や就職イベントに積極的に参加させ、大学・専門学校をはじめ、企業に対する見聞を広げ、進学や就職試験に備えるとともに、受験生あるいは就活生としての意識を自覚させる。また、外国人人材雇用促進企業の校内企業説明会等の誘致が学生自身のスキルアップとして日本語能力に関する資格にとどまらず、ビジネス日本語検定、ビジネスマナー検定、ITパスポート等の資格試験に挑戦させ、日本語能力に関する資格以外にも就職に有利となる資格取得を目指すよう指導を行う。

- (v) 計画的なインターンシップの実施

アルバイト先では経験できない日本企業での実務を経験することで、「就職」への意識を高めていく。また、就職後の希望職種と実務とのミスマッチによる早期離職の防止のほか、学生の希望や適性、能力に応じた企業を取捨選択できる判断力を育成する。そのためのインターンシップ先の開拓を強化する。

(vi) 進路相談体制の強化

各学科やクラス、教科、教員と事務方等との枠を超えた全員体制で、入学から卒業まで、一貫した進路指導を行う。進学者に対しては、受験スケジュール（出願期間・試験日・入学手続等）管理の共有をし、就職内定者に対しては在留資格変更に関する情報・必要書類準備の周知及び内定先企業及び行政書士と連携し、在留資格変更申請に遺漏がないようにする。

(vii) 新型コロナ禍における進路指導の対策

新型コロナウイルス感染症が留学生の求人にどのような影響を与えているかを正確に把握し、日本での就職を希望する学生に対し、現実的な進路として、どのような分野、どの地域で就職を目指すのか等、情報収集を適宜行い、明示、指導を行う。また、帰国を希望者には、現地日系企業での就職先に道筋をつけ、大学編入を目指す者には、進学指導を行い、特定技能での就労を希望する者には、技術試験を受験させる等、個々の能力と希望を見極め、適切かつ多様な進路を提案する。

3 学級担任

課程	系	区別	学 科 名	1 年	2 年
工業専門課程	建築系	昼間	研究科	戸澤まり子	—
			建築学科	平上 秀明	平上 秀明
			住宅デザイン科	吉田 知恵	吉田 知恵
			インテリアデザイン科	戸澤まり子	唐木 恵美
文化・専門課程 教養課程	国際系	昼間	ブリッジシステムエンジニア科	大串いづみ	井手 万里
		昼間	国際コミュニケーション科	大串いづみ	—
			日越通訳・翻訳科	大串いづみ	PHAN VAN TAM

4 教務室分掌構成員

部 門	分 掌	担 当 者
事務部門	総務・労務	原 充介、檜崎 悟志、上本 佳直、山下 幸代、野村 裕子、北野 裕子
	経理	原 充介、檜崎 悟志、上本 佳直、嶋田 享子
	管財	原 充介、檜崎 悟志、上本 佳直、魚住 正治
教育部門	教育	原 充介、檜崎 悟志、上本 佳直、魚住 正治、野村 裕子、北野 裕子
	教務	原 充介、檜崎 悟志、上本 佳直、魚住 正治、山下 幸代、野村 裕子、北野 裕子、嶋田享子
	生涯学習	原 充介、檜崎 悟志、上本 佳直、山下 幸代、野村 裕子

5 建築系広報・進路部門分掌構成員

部 門	分 掌	担 当 者
広報・進路部門	広報	中島 征治、清本 真沙実、村上 千里、諸岡 邦行、藤井 紫真
	出願	中島 征治、清本 真沙実、村上 千里、諸岡 邦行、藤井 紫真
	受付	中島 征治、清本 真沙実、村上 千里、諸岡 邦行、藤井 紫真
	進路指導	中島 征治、林殿 泉、溝口 有里、岡田 ひろみ
	図書	中島 征治、林殿 泉、溝口 有里、岡田 ひろみ

6 国際系広報・進路部門分掌構成員

部 門	分 掌	担 当 者
広報・進路部門	広報	大串 いづみ、金村 優美、十場 幸子、廣瀬 良子
	出願	大串 いづみ、金村 優美、栗本 真里、十場 幸子、廣瀬 良子
	受付	大串 いづみ、金村 優美、栗本 真里、十場 幸子、廣瀬 良子
	進路指導	大串 いづみ、井手 万里、PHAN VAN TAM、金村 優美、栗本 真里、十場 幸子、廣瀬 良子
	図書	金村 優美、栗本 真里、十場 幸子、廣瀬 良子

7 行事予定表

◇前期

R 4 / 4 月				R 4 / 5 月				R 4 / 6 月				R 4 / 7 月				R 4 / 8 月				R 4 / 9 月			
1 金			1 日			1 水			1 金							1 月			1 木				
	職員全体会議																						
2 土			2 月		授業日 (研究科)	2 木		国際系課外授業 (1年) 地域ポラン ティア活動緑地公園清掃	2 土	一般 休曜日	二級建築士 (学科の試験) 日本語能力試験 (第1回)					2 火							
3 日			憲法 記念日		授業日 (研究科)	3 金			3 日							3 水		建築系オープンキャンパス (10)	3 土	一般 休曜日			
4 月			みどりの 日		授業日 (研究科)	4 土	一般 休曜日	建築系オープンキャンパス (4)	4 月							4 木							
5 火			こどもの 日		授業日 (研究科)	5 日			5 火			インターンシップ開始 (建築系2年)				5 金		学校関係者評価委員会					
6 水					授業日 (研究科)	6 月			6 水	↓	国際系課外実習 (1年) 六甲山 国際系スポーツ大会 (2年)				6 土	一般 休曜日	国際系オープンキャンパス (3)	6 火					
7 木			一般 休曜日			7 火			7 木						7 日		建築系オープンキャンパス (11)	7 水					
8 金			ガイダンス (研究科・建築系2年・国際系2 年)			8 水			8 金	↓					8 月								前期追試験受験者発表
9 土	一般 休曜日				クールビズ開始 (10/31迄)	9 木			9 土		建築系オープンキャンパス (7) ＡＯ入試選考 (2) 国際系オープンキャンパス (1)				9 火								前期追試験開始
10 日						10 金			10 日						10 水		夏季休暇前授業終了 (研究科)	10 土					建築系オープンキャンパス (13) ↓ ＡＯ入試選考 (6) 国際系オープンキャンパス (6)
11 月			ガイダンス (建築系1年・国際系1年)		消防訓練	11 土		建築系オープンキャンパス (5)	11 月	↓					11 木	山の日	全館閉館 (8/17迄)	11 日					二級建築士 (設計製図の試験)
12 火						12 日			12 火	↓					12 金	一般 休曜日							↓
13 水						13 月			13 水	↓					13 土	一般 休曜日							↓
14 木					建築系オープンキャンパス (2)	14 火			14 木		インターンシップ終了 (建築系2年)				14 日								前期追試験終了
15 金						15 水			15 金						15 月	一般 休曜日							前期追試験結果発表
16 土	一般 休曜日					16 木			16 土	一般 休曜日					16 火	一般 休曜日							前期授業終了 (研究科)
17 日						17 金		国際系課外授業 (2年) 地域ポラン ティア活動緑地公園清掃	17 日						17 水	一般 休曜日							
18 月						18 土	一般 休曜日		18 月	海の日					18 木		夏季休暇後授業開始 (研究科)						
19 火						19 日		日本留学試験 (第1回)	19 火						19 金		東京・大阪合同教員研修発表会	19 月	敬老 の日				
20 水						20 金			20 水						20 土	一般 休曜日	建築系オープンキャンパス (12) ＡＯ入試選考 (5) 国際系オープンキャンパス (4)	20 火					ＡＯ入試書類審査 (1)
21 木			一般 休曜日		建築系オープンキャンパス (3)	21 火			21 木						21 日								
22 金			22 日			22 水			22 金						22 月								第1回教育課程編成委員会
23 土			23 月			23 木			23 土	一般 休曜日	建築系オープンキャンパス (6) ＡＯ入試選考 (3) 国際系オープンキャンパス (2)				23 火				秋分 の日				建築系オープンキャンパス (14) ＡＯ入試選考 (7) 国際系オープンキャンパス (7)
24 日			24 火			24 金			24 日						24 水					一般 休曜日			
25 月			25 水			25 土	一般 休曜日	建築系オープンキャンパス (6) ＡＯ入試選考 (1)	25 月			前期定期試験開始			25 木								
26 火			26 木			26 日			26 火	↓					26 金		職員研修発表会						国際系入学願書受付開始
27 水			27 金			27 月			27 水	↓					27 土	一般 休曜日	国際系オープンキャンパス (5)	27 火					
28 木			28 土	一般 休曜日		28 火		国際系課外授業 (全学年全学科) 四季の文化体験	28 木			前期定期試験終了			28 日								前期成績会議
29 金	昭和 の日		29 日			29 水			29 金			夏季休暇前授業終了 (研究科以 外)			29 月								
30 土	一般 休曜日		30 月			30 木			30 土	一般 休曜日	建築系オープンキャンパス (9) ＡＯ入試選考 (4)				30 火								前期授業終了
									31 日						31 水								

※I..研究科 A..建築学科 U..住宅デザイン科 I...インテリアデザイン科 X..国際コミュニケーション科 V...越前駅・福沢駅 Z...ブリッジシステムエンジニア科

7 行事予定表

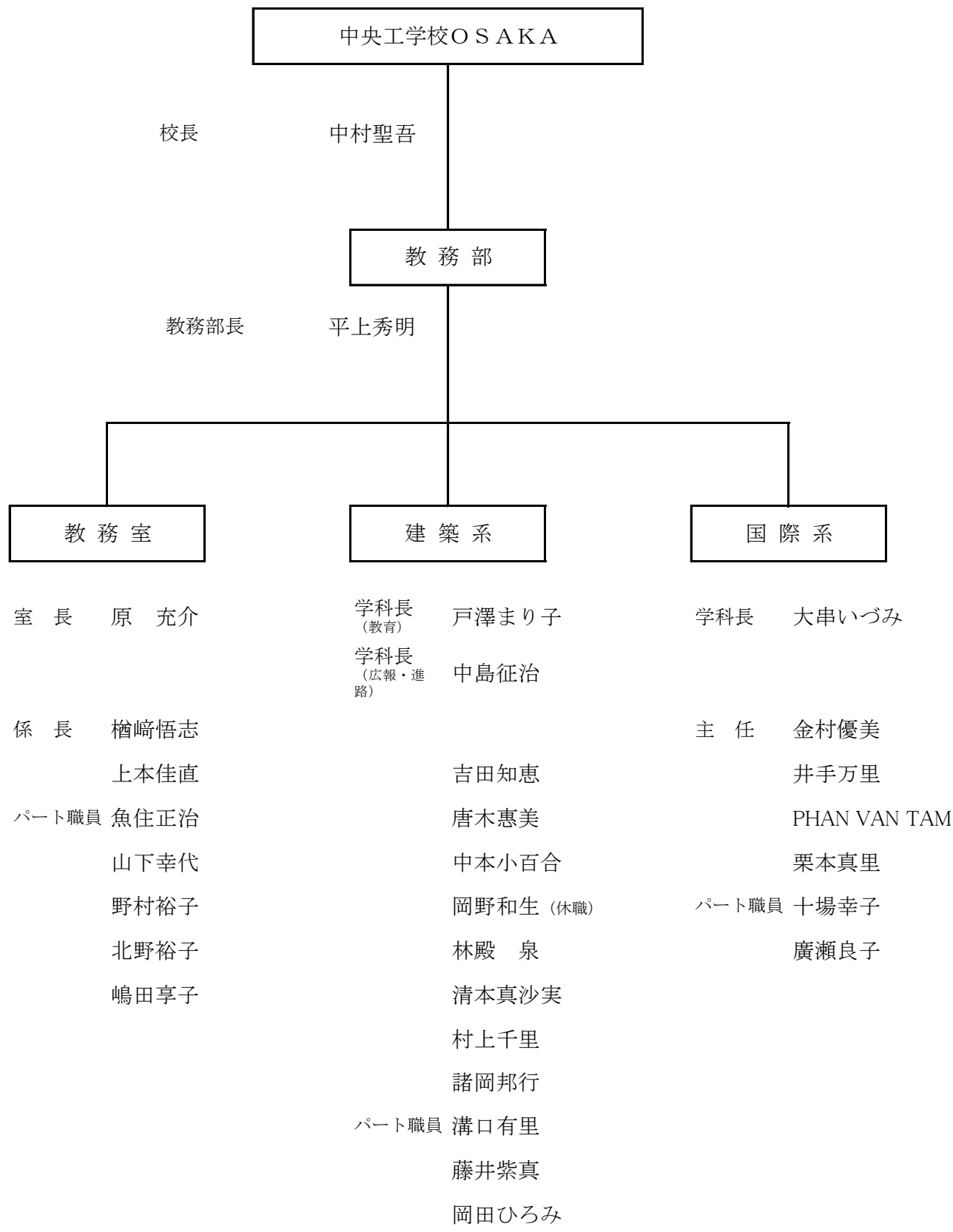
◇後期

R4／10月				R4／11月				R4／12月				R5／1月				R5／2月				R5／3月			
1	土	一般 休暇日		1	火		休日	1	木			1	日	元日		1	水			1	水		卒業認定試験(3/2迄)
2	日			2	水		後期授業開始(研究科)	2	金			2	月	振替 休日		2	木			2	木		↓
3	月			3	木	文化 の日		3	土	一般 休暇日		3	火	一般 休暇日		3	金			3	金		国際系入学選考(7)
4	火		後期授業開始(研究科以外) 建築系入学願書受付開始 国際系課外授業(1年)地域ボランティア	4	金		国際系入学選考(3)	4	日		日本語能力試験(第2回)	4	水	一般 休暇日		4	土	一般 休暇日		4	土	一般 休暇日	
5	水		↓	5	土	一般 休暇日		5	月			5	木		仕事始め	5	日			5	日		
6	木		↓	6	日			6	火			6	金			6	月			6	月		第2次卒業・進級成績審議会
7	金		建築施工実習終了(A1・U1)	7	月			7	水			7	土	一般 休暇日		7	火			7	火		卒業決定発表 進級保留者発表
8	土		国際系オープンキャンパス(8) 国際系入学選考(1)	8	火		AO入試書類審査(4) 国内建築研修開始(研究科) 国際系課外授業(1年)地域ボランティア	8	木			8	日			8	水			8	水		
9	日			9	水		↓	9	金			9	月	成人 の日		9	木			9	木		進級認定試験(3/10迄)
10	月	スポーツ の日		10	木		↓ 国際系課外研修終了(V2・Z2)	10	土		建築系オープンキャンパス(10) 一般・推薦入試選考(3) 国際系オープンキャンパス(11)	10	火		冬季休暇後授業開始	10	金			10	金		↓
11	火			11	金		国内建築研修終了(研究科)	11	日			11	水			11	土	建国記 念の日		11	土		建築系オープンキャンパス(20) 一般・推薦入試選考(5)
12	水			12	土		建築系オープンキャンパス(17)、AO 入試選考(10)、一般・推薦入試選考(2) 国際系オープンキャンパス(10)、国際	12	月			12	木			12	日			12	日		
13	木			13	日		日本留学試験(第2回)	13	火		AO入試書類審査(6)	13	金			13	月		後期追試験結果発表 卒業成果・制作発表会準備	13	月		第2次進級成績審議会
14	金			14	月			14	水			14	土			14	火		卒業成果・制作発表会 卒業成果・制作発表会	14	火		
15	土	一般 休暇日	建築系オープンキャンパス(15) AO入試選考(8)	15	火			15	木			15	日			15	水		↓	15	水		卒業証書授与式
16	日			16	水		国際系課外授業(1年)四季の文化 体験	16	金			16	月			16	木		卒業成果・制作発表会撤回 所沢国際芸術院海外授業(2年)芸術体験 卒業学年授業終了	16	木		進級発表
17	月		国際系課外授業(2年)地域ボラン ティア活動緑地公園清掃	17	木			17	土	一般 休暇日		17	火			17	金			17	金		
18	火		AO入試書類審査(3)	18	金			18	日		建築系AO入学前教育(1)	18	水			18	土	一般 休暇日		18	土	一般 休暇日	
19	水			19	土	一般 休暇日		19	月			19	木			19	日			19	日		
20	木		国際系課外研修(V1・Z1)広島	20	日			20	火			20	金			20	月			20	月		
21	金		↓	21	月			21	水			21	土	一般 休暇日		21	火			21	火	春分 の日	
22	土	一般 休暇日		22	火		スポーツ大会(建築系)	22	木			22	日			22	水			22	水		
23	日			23	水	勤労感 謝の日		23	金		国際系課外授業(1年)四季の文化 四季の文化体験(学内) 卒業学年授業終了	23	月			23	木	天皇 誕生日		23	木		
24	月		国際系入学選考(2)	24	木			24	土	一般 休暇日		24	火		後期定期試験開始	24	金		卒業成績審議会 進級学年授業終了	24	金		
25	火			25	金			25	日			25	水		↓	25	土	一般 休暇日		25	土	一般 休暇日	建築系オープンキャンパス(22)
26	水			26	土	一般 休暇日		26	月		冬季休暇(1/7迄)	26	木		↓	26	日			26	日		
27	木		イケフェス大阪準備(建築系) (10/28迄)	27	日			27	火			27	金		後期定期試験終了	27	月		卒業保留者発表 卒業認定者成績送付	27	月		
28	金		↓	28	月		国際系入学選考(5)	28	水		仕事納め	28	土	一般 休暇日		28	火			28	火		
29	土	一般 休暇日	建築系オープンキャンパス(16) AO入試選考(9)、一般・推薦入試選考 (1)、指定校推薦入試選考	29	火		AO入試書類審査(5)	29	木	一般 休暇日	年末年始休暇(1/4迄)	29	日			29	水			29	水		
30	日		↓ 自宅学習日(国際系)	30	水			30	金	一般 休暇日	↓	30	月			30	木			30	木		
31	月		イケフェス大阪撤回(建築系) クールビズ終了					31	土	一般 休暇日	↓	31	火			31	金			31	金		

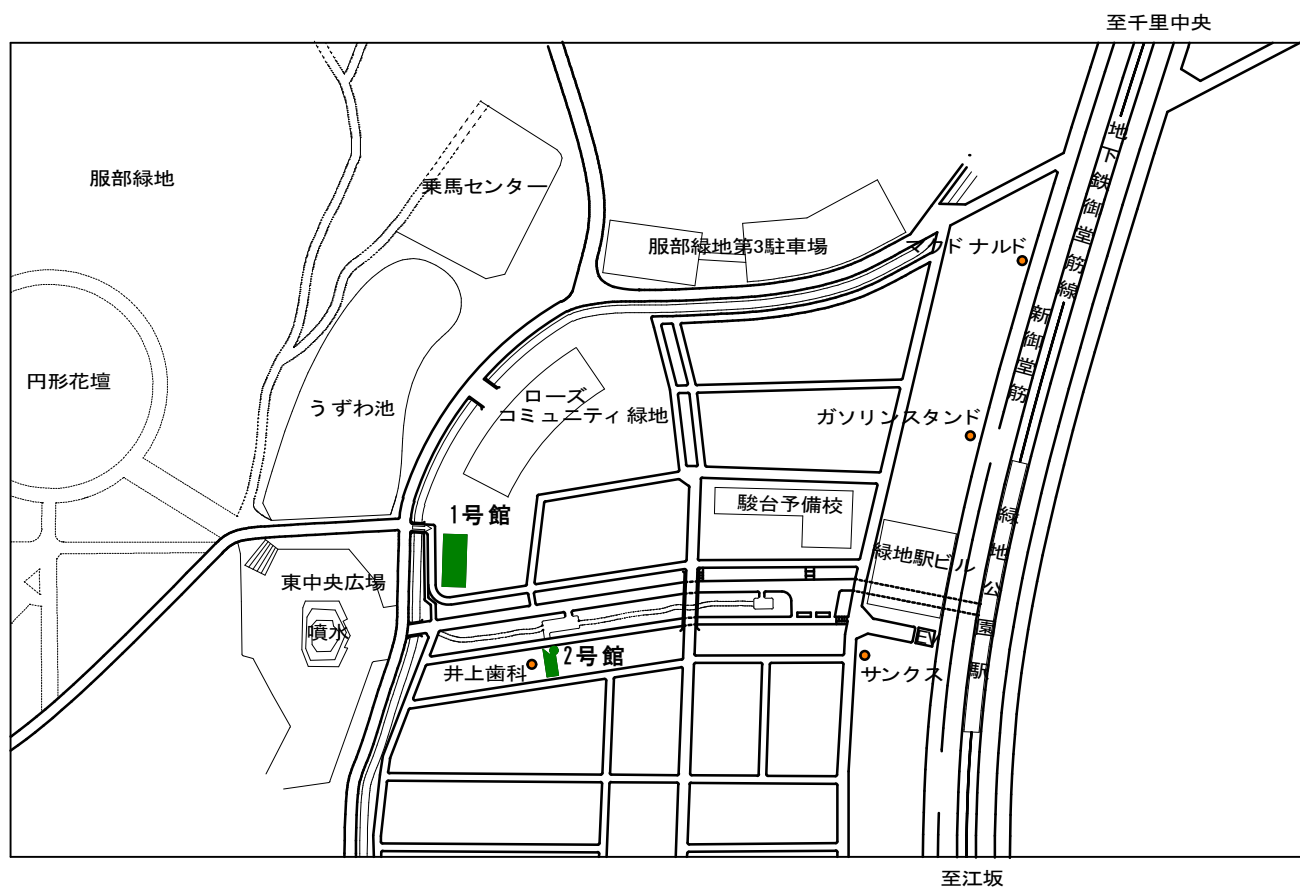
※1..研究科 A..建築学科 U..住宅デザイン科 1...インテリアデザイン科 X...国際コミュニケーション科 V...日越通訳・翻訳科 Z...ブリッジシステムエンジニア科

参 考 資 料

8 職員組織表



9 付近見取図

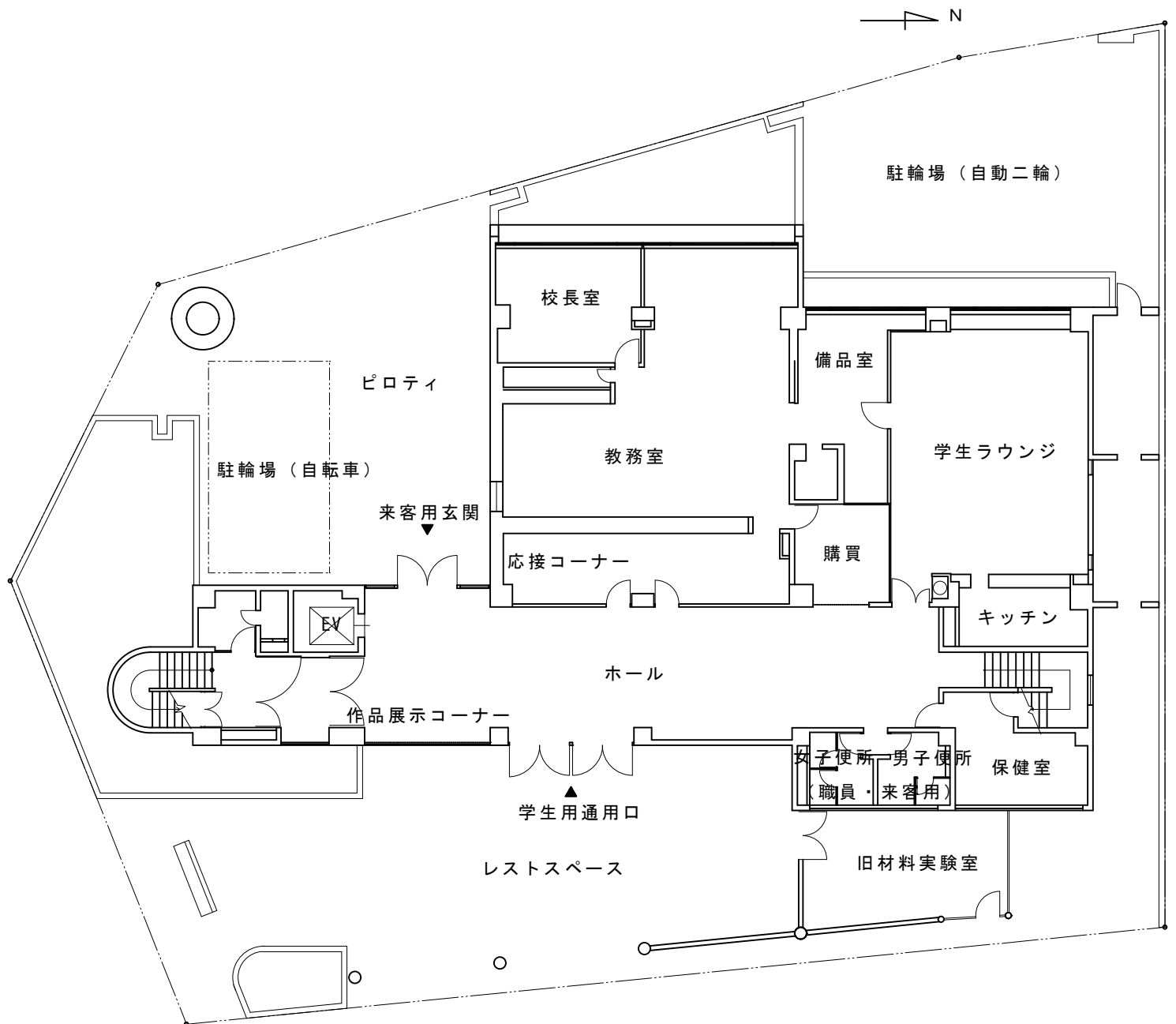


学校法人 中央工学校
中央工学校OSAKA

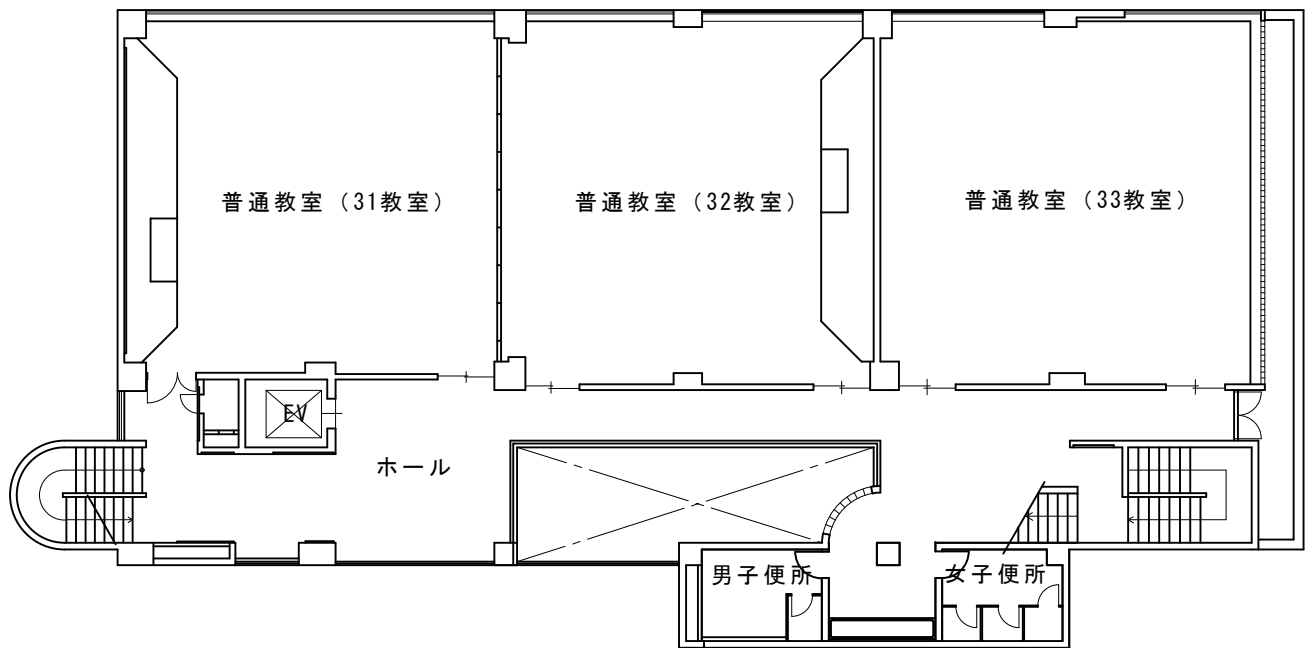
〒561-0872 大阪府豊中市寺内一丁目1-4-3 TEL06-6866-0800 FAX06-6866-1616

10 校舎配置図

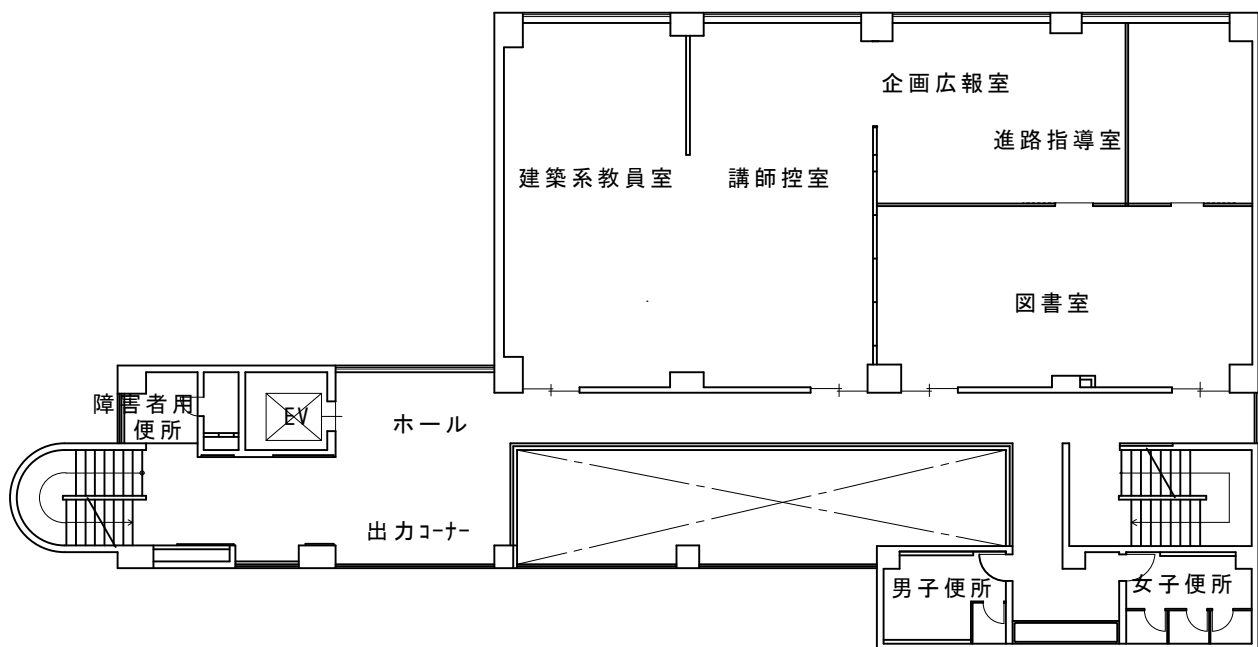
○ 1号館



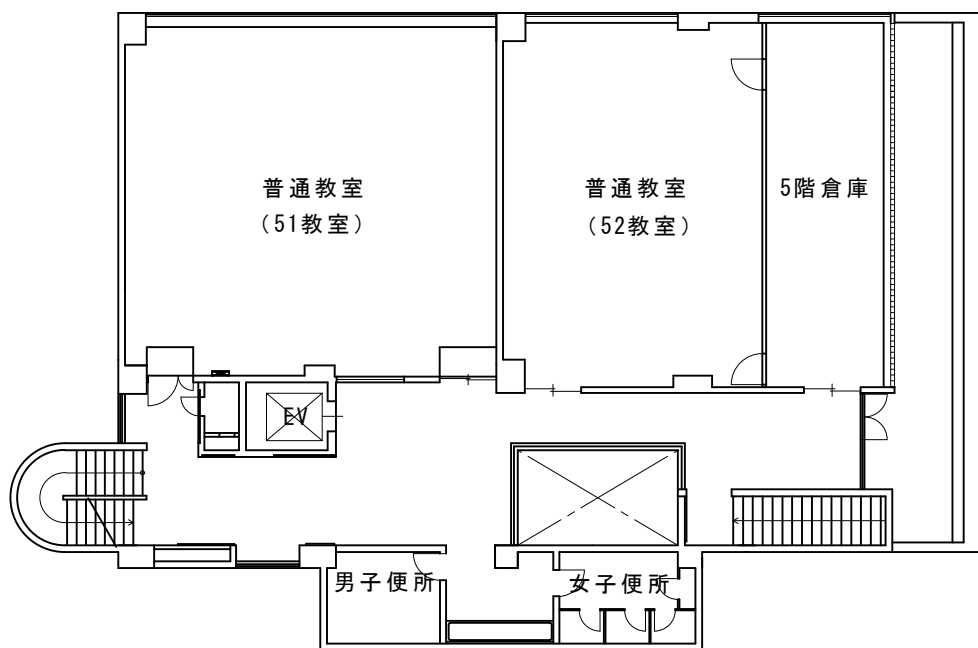
敷地配置図・1階平面図



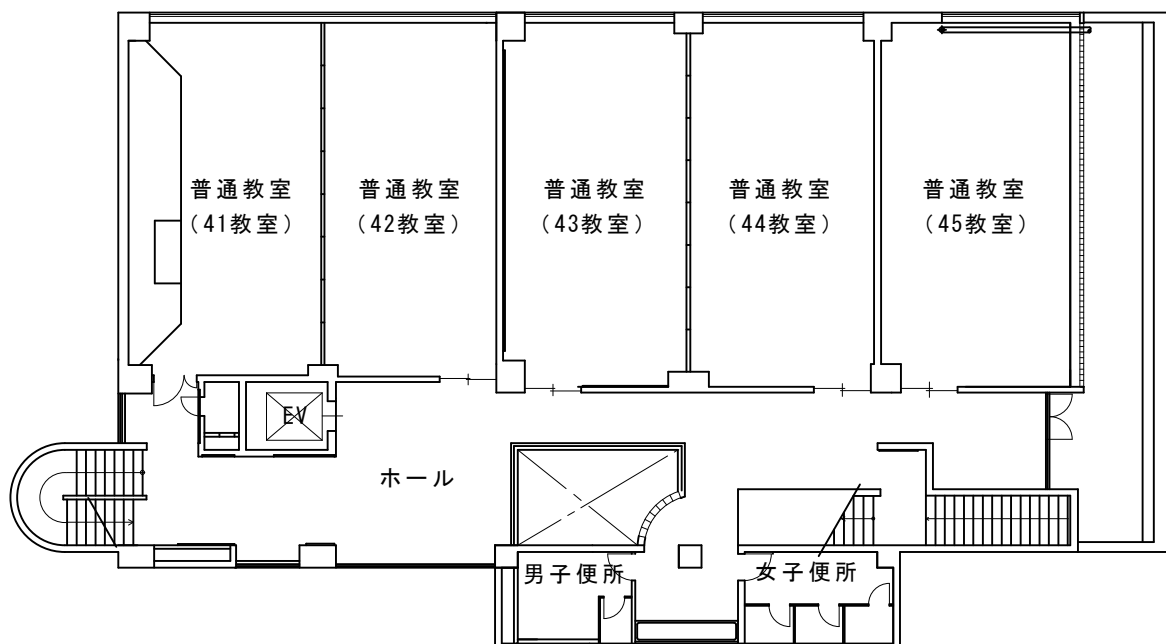
3 階平面図



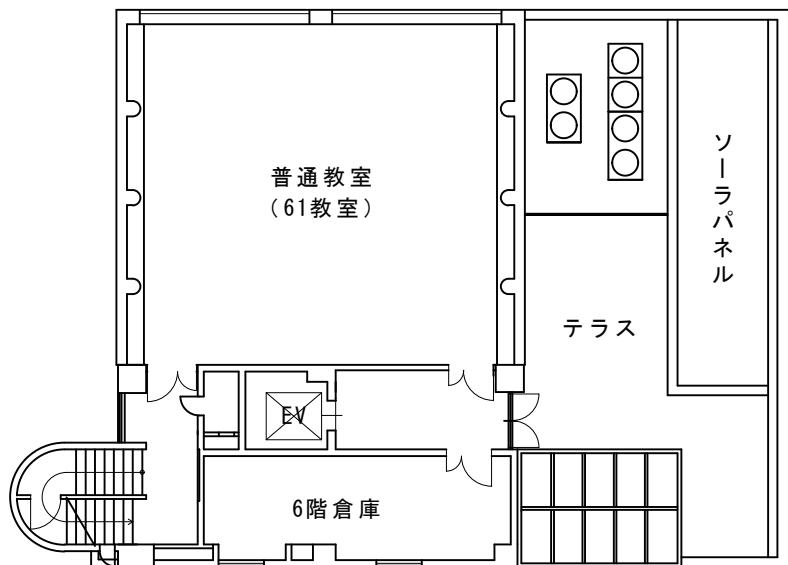
2 階平面図



5 階平面図

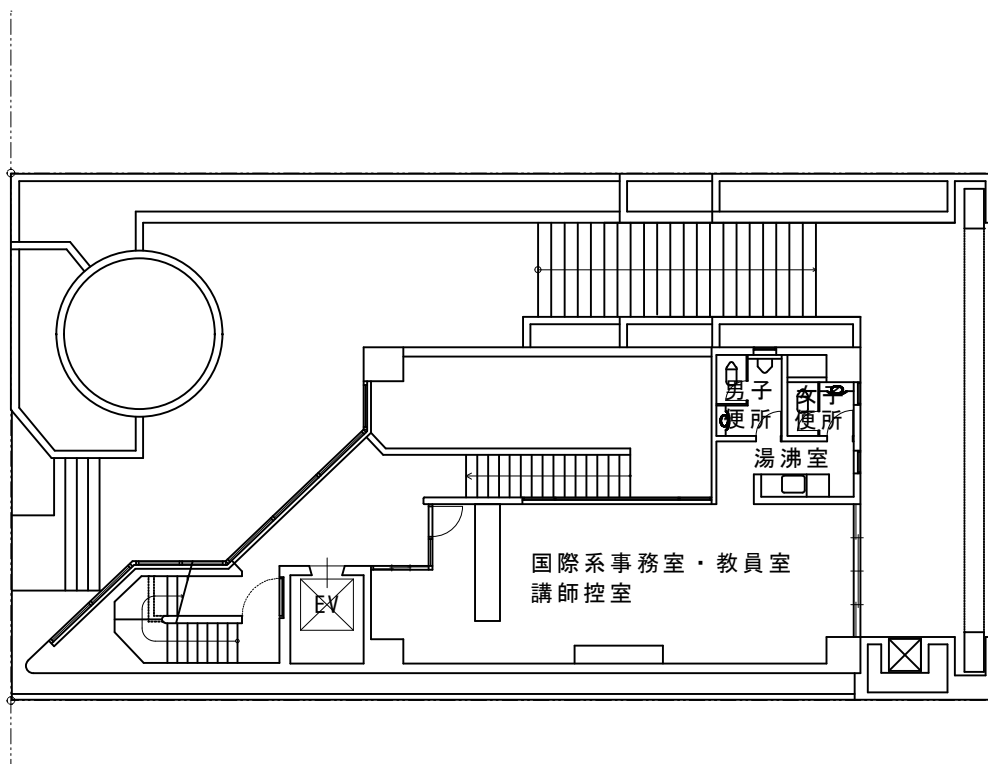


4 階平面図

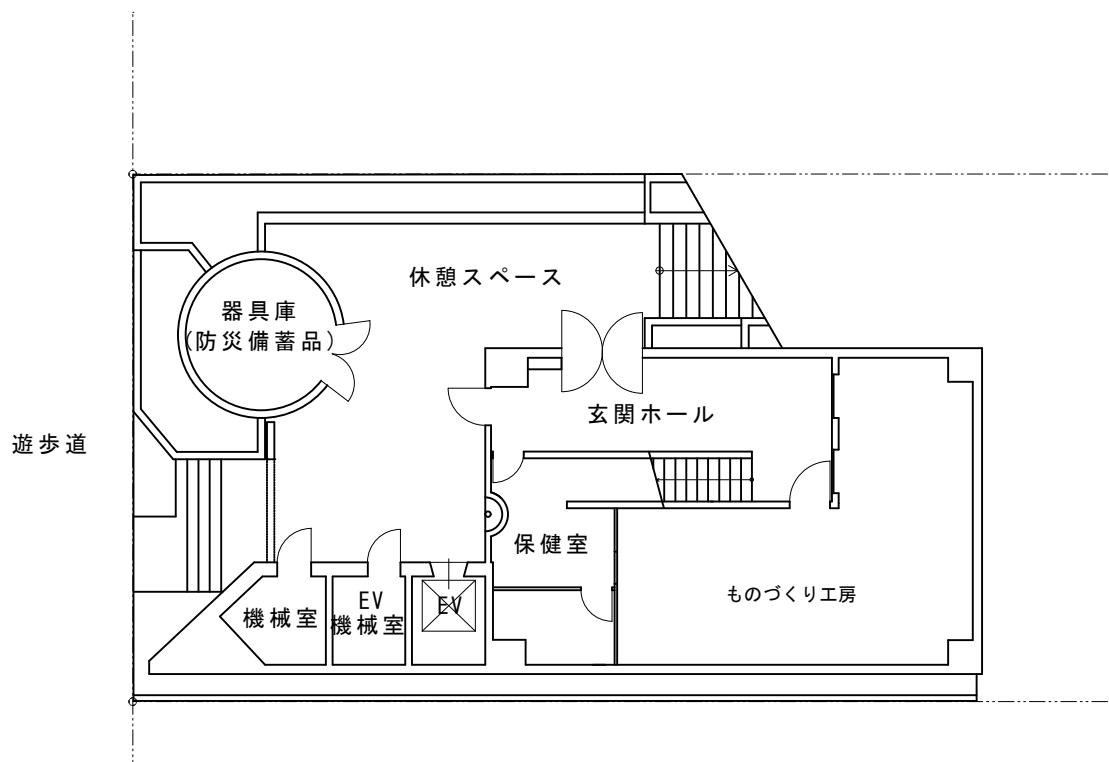


6 階 平 面 図

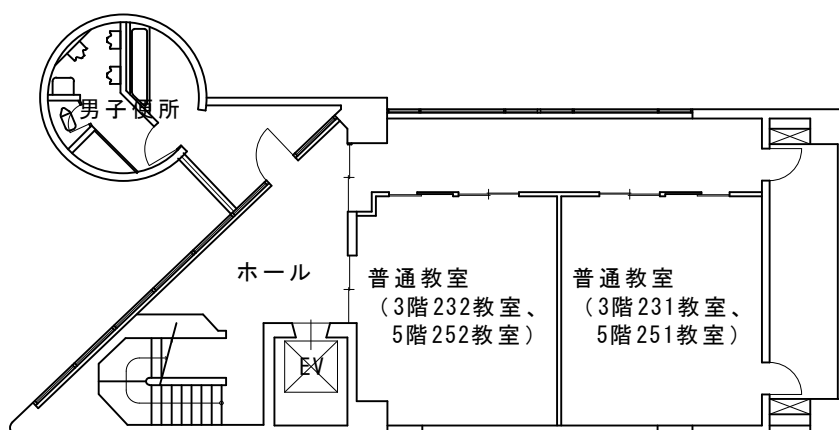
○ 2号館



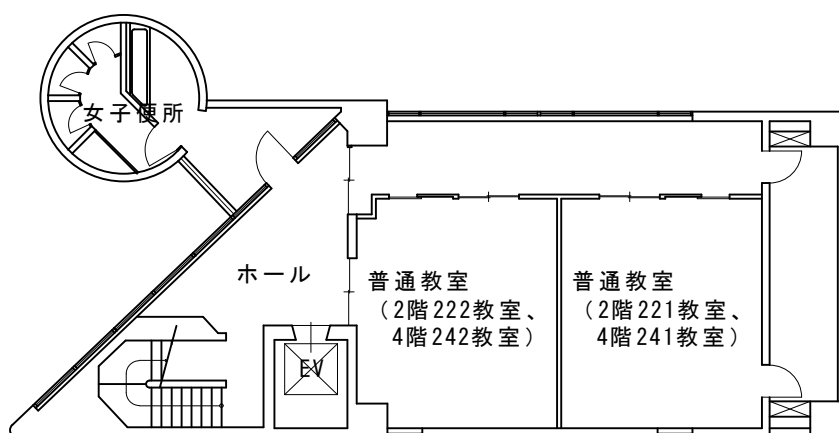
1 階平面図



敷地配置図・地下1階平面図



3 . 5 階平面図



2 ・ 4 階平面図